

月刊

ダンゲロス

201110



魔人10選「ド正義卓也」
「ダンゲロス俺の嫁」インタビュー
俺の嫁 経過発表
ダンゲロス SS 一回戦

学園魔方阵Aのダンゲロス「ホストたちの村」

戦闘破壊学園
ダンゲロス

2011年2月2日
講談社より発売!!

この先
DANGEROUS!
命の保証なし!

ダンゲロス
cagami kyosuke

第3回 講談社BOX新人賞
Talents受賞作

戦闘破壊学園
ダンゲロス
架神恭介
Illustration 左

この先
DANGEROUS!
命の保証なし!!

希望崎学園
新校則提案

- 非貞、非処女者以下
- 廊下を走った者
- 掃除をサボった者
- 服装が乱れた者
- 遅刻者
- レイプ犯罪 (加害者、被害者)

希望崎学園
新校則提案
KANTANA BOX
POWER BOX

【著者】架神恭介 【イラスト】左
【価格】1785円(税込)
【ISBN】978-4-06-283759-0
【発行】講談社

「この先、DANGEROUS！ 命の保証なし！」

魔人どもの巣窟、私立希望崎学園——通称「戦闘破壊学園ダンゲロス」にて、生徒会・番長グループによる恐るべき最終戦争「ダンゲロス・ハルマゲドン」が幕を開ける——！

全身から異臭を放つ怪力ロリっ娘番長、邪賢王ヒロシマに相対するは、「学園総死刑化計画」を企む恐怖の生徒会長ド正義卓也！そして、両派の殲滅を目論み召喚された次元の旅人『転校生』。

性別転換能力者、両性院男女を中心に三者の思惑は乱りに乱れ、魔人能力は百花繚乱の様相を示す。愛と正義と変態性欲渦巻く混沌の戦場に、華開く一つの奇跡とは——。

全国書店にて好評発売中！！



目次

- 1、ダンゲロスとは
- 2、魔人とは
- 3、絶対に知っておきたい魔人10選「ド正義卓也」
- 4、「ダンゲロス俺の嫁」インタビュー
- 5、俺の嫁名簿 経過発表
- 6、ダンゲロスSS一回戦
- 7、学園魔方陣Aのダンゲロス「ホストたちの村」
- 8、表紙の魔人

ダンゲロスとは

『戦闘破壊学園ダンゲロス』

・第三次ダンゲロス・ハルマゲドン ストーリー

小説家の菊地某によって創設された私立希望崎学園では、当然のように魔人たちが跋扈し、血で血を洗う不毛な戦いを繰り広げていた。

そして、生徒会とそれに敵対する番長グループの緊張状態は日に日に高まり、校長によるデタントの動きも空しく、ついに二大勢力の休戦協定は破棄され、ここに第三次ダンゲロス・ハルマゲドンが勃発したのである。

事態を憂慮した数学教師長谷部は、魔人どもの戦いに終止符を打つべく、異界から『転校生』を召喚する。転校生に与えられた使命は、生徒会、ならびに番長グループの殲滅であった。

- ・「戦闘破壊学園ダンゲロス」はインターネット上で行うアナログのオンラインゲームです。
- ・各プレイヤーは超常的な力を持つ「魔人」を一人一キャラクター創作し、「生徒会」「番長グループ」のに陣営に分かれて戦います。
- ・ゲーム性は一言で言えば「自由に駒の作れる将棋」。魔人将棋とも呼ばれます。
- ・各魔人の特殊能力はイメージの赴くまま自由に作れます。ただし、強い能力ほど発動に成功する確率が下がります。
- ・各陣営とも約一週間の戦術会議を行い、ゲーム当日に互いの戦術を競い合わせます。
- ・一週間かけて仲間たちと練り上げた最強の戦術が見事に成功した瞬間、もしくは、相手の戦術の前に為す術もなく瓦解していく喜怒哀楽を楽しむ戦略シミュレーションゲームです。
- ・ゲームは不定期で開催されます。キャラクター募集が始まったら、きみも参加してみよう！いつも妄想しているキャラ設定や「おれのかんがえた特殊能力」を披露するチャンスだ！
- ・なお、ダンゲロスの公式設定は「魔人の持つ特殊能力とは『自己の認識を他者に強制する能力』」という一点のみです。世界観やキャラクターも自分の好きなように解釈できます。「そうだと思った人にとっては、それが公式設定」がダンゲロスです。これにより人のキャラクターや世界観を自由に改変して、小説、イラスト、ゲームなどの二次創作を誰でも作ることができます。商用・非商用は問いません。現在、ダンゲロスの二次創作小説として講談社から『戦闘破壊学園ダンゲロス』（著・架神恭介）が発売されています。
- ・ただし、自由度の高さの反面、これは自分のキャラクターが他人にいじられるということでもあります。自分のキャラクターにすごく愛着があり、誰にも触らせたくない！という人には参加をオススメできません。参加希望者は参加時に他者に二次創作されることを許諾する必要があります。

本文：架神恭介 (<http://www.pixiv.net/member.php?id=1149979>)

魔人とは

『魔人』

- ・魔人とは、人間の域を超えた身体能力や技術を持ち、また固有の超能力（特殊能力）を備えた存在です。
- ・彼らは生まれた時からそのような力を持っているわけではなく、何らかのきっかけによって魔人に覚醒します。

覚醒者の傾向

- ・日頃から妄想ばかりしている人や、目立ちたがり屋、「オレは他のヤツラとは違う特別な人間なんだ」と思い込んでいる人などが魔人になりやすく、幼児期や少年期、特に中学二年生頃は魔人覚醒の可能性が高くなります。そのため魔人の持つエネルギーのことを、専門家は「中二力（ちゅうにりょく）」と呼んでいます。
- ・幼児期の子供は、手からエネルギー波を出したりする漫画の主人公などに憧れることが多く、覚醒した場合は特殊能力も攻撃的なものとなる傾向にあります。一方、中学～高校生頃に覚醒した魔人は、男女を問わず性的な能力を得る者が出てきます。
- ・一般的な中学、高校では、1学年に2～3人の魔人が含まれます（治安の良い学校における不良の割合と同程度）。ただし、魔人は差別の対象になりうるため、特定の学校以外では自分が魔人であることを秘密にしておくのが普通です。
- ・自分の能力に無自覚であったり、その力の詳細を知らない者もあり、同年代の不特定の他者が作り出す集合的無意識によって魔人となるものもいるとされています。
- ・また、ごく稀にはありますが、魔人として覚醒しやすい血統を持つ人間も存在します。

特殊能力

- ・魔人の持つ特殊能力とは、「自己の認識を他者に強制する能力」であり、もっと端的に言うならば、「自分の妄想を他人に強制する力」のことです（ゲーム的には「プレイヤーの妄想（した超能力）を他者（他プレイヤー/ゲームキーパー/ゲーム全体）に強制する」と考えて下さい）。
- ・魔人同士の戦いとは互いの妄想のぶつけあいにはなりません。
- ・特殊能力は魔人にとって自己のアイデンティティに等しいものです。そのため、思春期の魔人たちは「自分らしさ」を表現するために能力を行使しようとする傾向があり、理由なき暴力、理由なき殺人を行う魔人も珍しくはありません。
- ・そのため、魔人は社会的には犯罪予備軍として認識されており、周囲からは差別的な視線を送られています。
- ・魔人の突発的犯罪、すなわち、「キレル魔人」は社会問題となっており、老人などは「ワシら

の若い頃は村ぐるみで魔人を教育しとったから、今の若い魔人のように凶悪犯罪を犯すことはなかったんじゃない」などと言いますが、実際の魔人の犯罪率は以前に比べ減少傾向にあります。

差別

- ・魔人は差別の対象となることがあります。
- ・そのため、理性的な者は自分が覚醒しても能力を見せびらかしたりはせず、ひた隠しにします（シークレット）。
- ・ただし、そのような理性的な魔人は、調子に乗ってすぐに能力をひけらかす魔人に比べて中二力が弱く、能力や肉体の強さで他の魔人より劣る傾向にあります。

死ぬまで魔人

- ・覚醒した者はその後元に戻ることは無いため、若者だけでなく老年の魔人も多くいます。
- ・彼らは雇用差別や住居差別を受けることが多く、その鬱憤からやはり突発的犯罪を犯しがちです。犯罪者にならずとも、アル中になったり、ホームレスになったりする者も少なくありません。
- ・中には魔人の力を使って事業などに成功し、巨万の富や権力を得ている者もいますが、彼らは一般人から妬まれ、ユダヤ人や客家のように扱われます。
- ・魔人の覚醒には遺伝要因もあるらしく、成功した魔人の一族郎党が集まり、財閥のような形を取ることもあります。これら一族では子や孫が魔人へと覚醒することを厭わず、むしろ覚醒を促すような教育を施すケースもあり、「児童虐待ではないか？」と社会問題になっています。
- ・また、スポーツをする者の中には、強い相手との出会いを繰り返すことで魔人としての力が飛躍的に増大するケースがあるようです。
- ・なお、魔人の中には、大人になってから自分の特殊能力を「恥ずかしくて仕方ない」と思うようになる者もあり、場合によっては、鬱病や強迫神経症へと発展します。カウンセリングに行くと、「それもあなたの個性なのよ」と慰められます。
- ・その一方で、「ウオオ、オレの能力マジかっけえ！」と、一生自分に酔い続けている魔人もおり、彼らは周囲の差別など屁とも思わず、一生、明るく楽しく楽天的に生きています。

魔人警察官

- ・警察も魔人を採用して、魔人の凶悪犯罪に対処しています。
- ・魔人警察官は、魔人が就職できる数少ない採用口であり、非常に倍率が高いです。
- ・また、他の魔人に比べ、一般人から受ける差別も比較的少なくてすみます。その代わりに、魔人警察官は他の魔人に対する差別感情が強く、犯罪を犯した魔人への取調べは苛烈を極め、しばしば社会問題となります。

・ 魔人警察官の他には魔人機動隊もあり、1970年代初頭、過激派魔人学生が起こした山荘立てこもり事件に出動したことで有名になりました。自衛隊にも魔人のみを集めて構成された魔人中隊があり、魔人の一個小隊は通常の大隊相当の戦力にあたると言われてています。

・ なお、魔人自衛官は通常の二階級上の給与を得られますが、佐官へは昇進できません（魔人中隊の指揮官は一般人の一佐が務めます）。学園外での魔人の犯罪やテロ行為に対しては、これら魔人警察官等が対策に当たります。

治外法権地区

・ 学園内での犯罪に警察権力は介入できません。

・ 1960年代に活発化した魔人学生による学生運動の結果、1970年代初頭に「学園自治法」が制定されたためです。これにより、全国の小・中・高・大学は校則を唯一の法律とする治外法権特区となり、学園内の治安は自己責任となりました。

・ 学園側は魔人体育教師などを雇い学園の治安維持に努めましたが、魔人学生たちは番長グループを組織してこれに対抗。多くの学園では番長グループが勝利し、学園を暴力で支配したため、校則は形骸化しました。

・ 1990年以降は、全国の手付けられない魔人学生たちを私立希望崎学園他、いくつかの学園に集めることで、多くの学園の治安は回復して来ています。こういった魔人の受け入れを行う学校は、一般的に魔人学園と呼ばれます。

・ しかし、それでも魔人の突発的な覚醒は防ぎようがなく、魔人学生による大量殺人は年に十数件報告され、ワイドショーなどで面白おかしく取り上げられています。

・ なお、希望崎学園は魔人の占める割合が高いため、学園内での魔人への差別感情も少なく、治安はともかくとして魔人の精神衛生上はむしろ外部世界よりも良好です。

転校生

・ 転校生とは、何らかの条件により魔人から進化する突然変異体ですが、詳しい発生原因などは解明されていません。

・ もともと持っていた魔人としての能力は消失し、代わりにまったく異なるロジックの能力を身に着けています。

・ 身体的にも、能力的にも魔人を凌駕する恐るべき存在です。

・ 彼らは契約によって召喚され、さまざまな次元を渡り歩きます。

本文：ダンゲロスwikiより転載 (<http://www34.atwiki.jp/hellowd/pages/117.html>)



●ド正義卓也

初出はTRPGの「Aマホダンゲロス」。

希望崎学園の生徒会長という設定で登場。ド正義が有罪と認めた相手を一睨みで即死させる『超高潔速攻裁判』という能力を持つ。言い換えれば、審議→有罪確定→死刑判決→死刑執行までの流れを早回しする能力である。学内の治安維持において優秀な能力であり、荒廃極まる希望崎学園に仮にも秩序を取り戻したのは彼の功績とされている。

しかし、当初はクールぶった利口キャラであった彼だが、鏡子とセックスしたことにより変な方向にキャラが崩れていき、途中から鏡子の性奴隷と化してしまい生徒会業務を放棄してしまった。ある時、学園有志により「ド正義更生計画」が発動され、パイプカットされたり、殴られて幼児退行するなどしたが、性奴隷から廃人にランクアップしただけで特に状況は改善されなか

った。

小説（架神BOX版）では、生徒会のトップとしてリーダーシップを発揮し、古くからのダンゲロスプレイヤーに「ド、ド正義が、活躍してる……」と驚愕されたが、小説中でもよく読むと大した働きをしていないし、それどころか、事件の原因は少なからずコイツにあるような気がしてくる。その後のダンゲロス界では流石に性奴隷設定、廃人設定こそなくなったものの、「いらんことを企画してムチャ振りしては生徒がひどい目に遭う」タイプのダメ上司なポジションに落ち着いている。野球試合を企画し野球部が全滅（小説「ダンゲロス・ベースボール」）、ダンジョン探索を指示して探索隊が全滅（小説「狂頭の試練場」）などなど。「有事にはともかく平時はダメダメ」と評されるが、EFB指定能力者、末那識千尋の学園見学の際は蜂に刺されて顔面がブクブクに膨れて能力が使えなくなるなど、ここぞという時にも役立たない残念な人物である。

なお、ある世界においては鏡子と結婚しており、二人の曾孫に鏡介がいる。鏡介が生まれた時には既にド正義は死去しており、鏡介は「過去に遡ってヒイ爺さんを殺してオレがおばあちゃんと結婚するんだ」と本気で言っていた。

イラスト：es

本文：架神恭介

「ダンゲロス俺の嫁」インタビュー

自分の妄想する「俺の嫁」キャラを投稿し、自らの妄想を衆目に晒しつつも、自分の嫁に対する愛を語るキチガイキャンペーン「ダンゲロス俺の嫁」に関して、メインGKのオツカレーさん（大塚 零）にインタビューを試みた。

.....はずであったが、質問者が多すぎたこともあり、インタビューは支離滅裂、何が何だか分からないキチガイじみたものとなってしまった。編者の強引な編集テクニックを駆使しても読むに耐えない代物にしかならなかったが、まあ、キャンペーン自体、頭がどうかしているので、インタビューもこんなもんでいいや、という投げやりな気持ちで、これを掲載することにした。

架神恭介: では、早速オツカレーさんにお尋ねしますが、今回のキャンペーン『ダンゲロス俺の嫁』ですが、まず、何を思ってこんなことをはじめられたんでしょうか？

大塚 零: 元々は萌えキャラダンゲロスという感じだったんです。でも、そういうモノだと普通の女の子とか沢山送られてこられても困ると思ひまして。それならいっそのことキチがったレベルでホント好きなキャラを送ってもらいたかったんですよ。

架神恭介: 普通の女の子が来たら困るんですかw でも、もちろん投稿すべきなのはオリジナルキャラですよ？ つまり、「自分で作った女の子を嫁にしたい」というレベルでプレイヤーは皆妄想している、という前提の企画なのでしょうか？

大塚 零: ずっと前から妄想しているものでもよろしいですし、この機会に自分の中から発掘してくるのもいいんじゃないでしょうかね。

やまいち: 俺のキャラは俺の嫁じゃなくて俺のキャラの嫁なんですけれど、どうすればよいのでしょうか？

あやまだ: 病院池

架神恭介: あれ？ 嫁にしたいと妄想してるキャラを送る、って、これ、ひょっとしたら単にオナペットをさらすゲームになるのでは？ そして、オナペットが魔人の能力を持ってることなんて普通はないのでは.....??

大塚 零: オナペットは嫁ではないですよ。

架神恭介: 嫁じゃないんだ。嫁の定義も難しそうですね。では、「すごく好きだけど嫁にしたい」という場合はどうなるんでしょうか。

大塚 零: そしたらその子は嫁ではないですよ。嫁にしたい、嫁に出来る、一生を共に過ごしたいというのが前提です。

架神恭介: 前提として魔人を嫁にしたいんですけどwww

大塚 零: 無能力魔人にしてもいいんじゃないんでしょうか。可愛いと思うのと嫁にしたいのは別物なので。だから可愛いキャラだけではダメなのがミソです。

架神恭介: なるほど、じゃあ、ヤンデレ系は基本的に出てこない感じになる？

大塚 零: ヤンデレと結婚したいならいいんじゃないんでしょうか、ダンゲロスに参加している限りそのキチガった子は「〇〇さんの嫁」と言われ続けることにはなりますが（※編者注：このゲームに参加した人は、その投稿キャラが「へー、**さんの嫁なんだー」と言われ続けることになる）

珪素: なら異形の外宇宙的モンスターとかでも、本人が「結婚したい！」と強く主張すれば優勝の可能性はある？

大塚 零: 責任取れるならいいですよ、そもそも、このキャンペーン、勝ち負けとかどうでもいいですし。

架神恭介: しかし、「実際に結婚したい」となると、リアル系のキャラばかりになりそうな気がするんですが大丈夫なんでしょうか？ 普通の女の子が送られてきても困るんですよね？ ごくふつうに料理の旨い気立ての良い子が集まりそうな……。

珪素: 織原夕美子さんですね！（※編者注：食人料理を得意とする女子高生魔人）

架神恭介: いやいやww

珪素: 「あなた、肉のスープができたわよ！」

架神恭介: たしかに織原さんはそうですけどw

珪素: 「どうしてうちの食費がこんなに安いのかって……？ ふふふ」

大塚 零: 料理が巧くて気立てが良い子が多くなってもいいですけど、ぴえらさんは「そんなに自分の奴隷が欲しいんですか？」っと疑ってかかりますよ。（編者注：ぴえらさんは今回のサブGK。脳内嫁に関して独自の評価基準を持っていると（勝手に）考えられている）

架神恭介: 僕にはちょっと難しいなー。ハードルが高い気がする。

大塚 零: ハードルは高いですよ、少数精鋭のキチガイキャンペーンなので。

珪素: じゃあ、アイデア女子高生などを送ってはいかがでしょうかかがみさん

架神恭介: そうか、アイデア女子高生でもいいのか。

珪素: それなら、思ったより論理的バトルになりそうな気がしてきた。

大塚 零: いや、概念ではなく即物的な存在の方が良いです。即物的な存在を送ってきてください！

珪素: でも、アイデアって全人類に共通のものなんでしょうか？ 女子高生アイデアはそれぞれの人にとって理想の形があると思うんですよ。

架神恭介: そこはどうなんでしょうかね。

珪素: 一人のアイデア女子高生が全員に女子高生を投影しているのか。それぞれの心の中に、アイデア女子高生が済むアイデア界があるのか。

大塚 零: いや、だから、一番好きな永遠の女子高生送ってくればいいんですよ！

架神恭介: いや、そうは言われても人間はアイデアに至れないんですよ。人間では完全な円を描けないのと同じです。

珪素: だから、「かがみさんのアイデア女子高生」を送ってくれば、私はそれがユニークな女子高生であり具体性に足る存在だと思うんですよ。

大塚 零:それはキャンペーンの放棄としてみなします。愛がないとダメです。

架神恭介:ええええ……。や、でも、愛とはなんですか？

大塚 零:<十数分の思考時間の後>……愛は世界を構築できるほどの幸福要素だと思います。

珪素:なるほど。つまり、「俺の嫁」との人生を含めてアピールする、という事は俺の嫁を通して、世界を構築するということなんですか？ それだけのエネルギーを生むに足る存在を投稿するのがこのキャンペーンだと。

架神恭介:嫁はビッグバンみたいなもんですか！？

珪素:ビッグバン・オーガニゼーション！

大塚 零:愛とか深く考えると僕が死にます……。

架神恭介:実はカプトボーグは僕も少し考えてたんです。嫁との人生を10年単位で語るべきなのだろうか。

珪素:「10年後！俺は嫁とまだ新婚気分！」「20年後！子供が20人！」「30年後！俺達のベストカップルぶりで世界戦争を事前に阻止！」

大塚 零:いや、死ぬまでじゃないんですよ！可愛くて可愛くて自分の嫁自慢するんですよ！！

珪素:だから、10年後20年後でも、嫁がおばあちゃんになっても、こんな人生を送れるぞと、それも自慢の一環じゃあないんですか！？

大塚 零:……一環ですよ。

架神恭介:えっと、話は変わりますが、結婚するなら結構ガチで鏡子がいいんですけど、既存キャラはどうなんでしょうか。

珪素:鏡子……、早死しそう。

大塚 零:既存キャラとか関係ないですよ、俺の嫁なので。

珪素:でも著作権キャラとかは駄目なんですよ？

大塚 零:ダメに決まってるじゃないですか。著作権キャラって言うのはアイドルであって、あなた個人の嫁ではないでしょうか？

珪素:それでも、何千万人が愛していても、自分が全人類で一番愛していると、そう言い切れるくらいの人間だったらどうなんでしょうか？

大塚 零:先にアイドルとして生まれた存在に対して嫁と言い張るのはストーカーと変わらないんじゃないでしょうか。

珪素:では、やはり鏡子もだめなんでしょうか？

大塚 零:その観点で言うのなら鏡子はダメですね……。

架神恭介:オリジナルキャラを自分で作らなきゃいけない、って方向ですね。でも、意識しちゃうと、鏡子より結婚したいと思えるキャラが思いつかないな。難しい……。

珪素:作者自身が送るのならば著作権キャラでもいいんですかね。たとえば、既存の漫画作品とかでその漫画家自身が、今回のキャンペーンに、その公開済の漫画のキャラを送ってくるというのはどういう判定なのかなと。

大塚 零:はい、理想を生み出すことが一番自分の理想に近くなるのであって、他人の作ったキャラを嫁にするのは理想の妥協だと思います。自分が作者ならアリです。

架神恭介:「オレはお前の脳内妄想が見たいんだwww」ってことですねw　じゃあ僕が天音沙紀ならアリなわけか。別に結婚したくないけど。(編者注:架神恭介著『戦闘破壊学園ダンゲロス』のヒロイン)

大塚 零:アリですよ。

架神恭介:又ガーさんから質問がきてますよ。「ところで投稿したキャラは投稿者のことを愛しているという前提なんですかね？」

大塚 零:これから関係が築けるのなら好意を持っていなくてももいいですよ。その仲良くなっていく仮定をSSで送ってきて構いません。

珪素:投稿者自身が、心の底から蔑んだ目で見られたいとか、嫌がるのを無理矢理がいいんだげへへとか思ってるなら、逆に嫌われてる設定でもあり？

大塚 零:無理矢理で嫌がることをして、それがホントに嫌がっているのなら一方通行の愛なのでダメですね。

陸猫:版權キャラに関してですが、「自分の理想を塗り替えるほどの、自分ごときの想像を超えるほどの、可愛いキャラを作る人が世の中にはいるんですよ。で、そういうキャラを見るとそのキャラを嫁にしたいくなる。むしろ自分の想像を超えている分だけ自作のキャラよりも愛は深くなる」……という意見がありますが。

大塚 零:他人が自分の想像を超えるキャラを生み出すのに関しては僕個人からはなんともいえない。けど、今回のキャンペーン趣旨には沿わないので、投稿は見送るべきかな。

珪素:例えば、ぴえらさんなら「すべての感覚がなく外界を一切認識しない超絶美少女」とかいかにも送ってきそうではありますが、それを嫁にするのも一方通行の愛なので無理？

架神恭介:いかにも送ってきそう！

珪素:後は「この娘といると不幸になるけど、それでも愛したい！」とかの設定はどうでしょうか。

大塚 零:この娘といると不幸になるけど、それでも愛したいというのは周囲の判断であって当人達が幸せならいいんじゃないんでしょうか、悔いなく死ねるんならOKですよ。

あやまだ:もし変身状態のミルキーレディに恋をしたとして、正体がわかったあとでもそれでも好きだ!嫁にしたい!って思ってる場合はどうでしょう(編者注:特撮番組『美装女戦士ミルキーレディ』のヒロイン。多くの視聴者のオナネタとなっていたが、その正体はスタントマンのおっさん)

大塚 零:いいですよ。

珪素:正体がオッサンでもあり……!

大塚 零:愛に性別は関係ないよ。

架神恭介:関係ないとは言っても本当にオッサンと夫婦生活を送れるのか……?　これは投稿者が「そのキャラと本当に夫婦生活を送れるのか」を一人ずつラジオに呼んでねちっこく聞くと面白い気がしますね(笑)

やまいち:カウンセリングですね、もはやそれ。

珪素:それは面白いなー。

大塚 零:それは考えてますよ。出来ることなら自分の口から嫁自慢してもらいたいですね。

珪素:肉声で嫁との生活を語れない連中はその時点でアウトで。

架神恭介:むしろ、呼んでもないのにラジオに出て自慢できなきゃダメだと(笑)

珪素:そのためにラジオ環境を整えないような連中も門前払いというわけですかね? 「お前は嫁のためにラジオ環境も整えられないのか」

大塚 零:いや、ラジオに出なくても嫁自慢は出来ますよ。

架神恭介:いやいや、むしろ、嫁と二人でラジオ出演できなきゃダメなんじゃないですか? 嫁と二人でトークできるんじゃないかな?

珪素:もちろん自分で嫁の発言もシミュレートするんですね?

やまいち:現実世界で嫁をそんなに自慢する人がいたらリアルに病気ですよ(笑)

大塚 零:俺を虐めて楽しいんですか?

珪素:いや、リアルでこれやってる場面想像したら面白いじゃないですか(笑) 本当にラジオ自慢やってほしいですよ私

架神恭介:さて、さっぱり収集が付かなくなってきたのでそろそろ終わろうと思うんですけど、じゃあ、最後に、キャンペーンの豊富をどうぞ。

大塚 零:こわいです。

架神恭介:ありがとうございました

やまいち:w w w w w w w w w

インタビュアー:架神恭介、珪素、やまいち、陸猫

された人:オツカレー

編集:架神恭介

先立ってのインタビュー企画を御覧になっても読者の方には何がなんだかさっぱりキャンペーンの内容がイメージできなかつたであろう。百聞は一見にしかずという言葉もある。では、実際に投稿されている「俺の嫁」を以下で見ていくことにしよう。なお、この記事を作成中の今もまだキャラ投稿受付中であり、これからの気の狂ったキャラクターは続々増えることと思われるし、これを読んでいるあなたもその一人となるかもしれない。

【エントリーNo1：普 かけら】

普 かけら（あまねー）

性別：女性

年齢：18歳

特殊能力：自分無双

■能力原理

人生の難易度を「かんたん」「easy」等、最も低いものでプレイする。

当然、相対的に彼女は強くなるのでリアル国士無双となりバッサバッサと敵をなぎ倒す。

だがそれはゲームの話であり、現実世界ではほとんど役に立たない。

ダンゲロス的にはこんな感じの能力である。

効果1：複合貫通 60

タイプ：瞬間型

範囲+対象：マップ全体 *5

時間：一瞬 *1

時間付属：死亡非解除 *1.2

効果2：即死 130

タイプ：瞬間型

範囲+対象：マップ全体 *5

時間：一瞬 *1

時間付属：死亡非解除 *1.2

効果3：能力休み解除 80

範囲+対象：自分自身 *0.75

時間：一瞬 *1

時間付属：死亡非解除 *1.2

制約：なし 10

キャラクターの説明

そこそこアニメや漫画やライトノベルが好きで、そこそこゲームが得意で、そこそこ勉強ができて、そこそこ運動ができる程度の少女。顔面偏差値は中の上くらい。髪は肩の辺りまで延びていて、校内では制服をきっちり着こなす。

個性がないわけではないが、「飛び抜けて個性的である」と言えるものは彼女には存在しない。アニメや漫画が好きだからといって絵を描いたりするわけでもなく、ライトノベルが好きだからといって作品を投稿したりするわけでもなく、ゲームが得意だからといって廃人が集う大会で優勝できるほどの実力があるわけでもなく、勉強ができるからといって東大や京大に入れるほどの実力があるわけでもなく、運動ができるからといって運動部の上位の連中に勝てるほどではない。だから彼女はその中途半端さのせいでいつも劣等感に苛まれている。

趣味にしても、基本はいつも「浅く広く」であるため

昔のアニメに詳しいわけでもないし、ファミコン世代ではないので昔のゲームにも詳しくはない。

「本気でハマったアニメや漫画」というものは彼女にはなく、ゲームはせいぜい「星のカービィSDX」くらいだ。

だが彼女はゲーマーの風上にも置けない様なやつで改造コード（チート）を使って無双プレイをするのが大好きなのだ。

そのデータで対人戦をするようなことはしないが、それは単にプレイしてくれる友達がいなくてだけである。

また、いわゆる「縛りプレイ」というものが大嫌い。理由はいたって簡単。

「どうしてゲームの世界で苦しいことや面倒なことをしなくてはいけないのか」という考えが根底にあるからだ。

彼女にとってゲームは「自分を楽しませるもの」であり、「自分から楽しむもの」ではないのだ。

今までの人生でこれといった大きな事件に遭遇したことは殆ど無い（彼女がそう思っているだけかもしれない）。

理不尽に怒るゴミクズのような教師に出会ったことはないし、集団で無視されたりいじめを受けたことがない。

基本的に誰もが「それなりにいい奴」か「ちょっと嫌なやつ」ばかりで「突き抜けた屑」に遭遇したことがない。

しかし、いままでそういう連中の会話の中心に居たことがない。入ろうとしてもすぐに傍観者となってしまうからだ。

言い方を変えれば、話を続けられるほど会話のネタを持っていない。

自分の確固たる居場所がないと思っている。自分を必要としてくれる場所を探しているのだが、そんな場所は現実にもネットの中にもない。大して面白くない二次創作SSを投下して自己満足に浸ったり、

その感想を見てちっぽけな自尊心を満たしたりとぬるま湯に浸かるような真似が彼女にはたまらなくよいらしい。

もともと、彼女は作品作りに関してはひどく臆病でちょっとでも批判意見があるとすぐに凹んで自信をなくしてしまう。

卑屈なくせにプライドは高い。自虐ネタは持ちネタの一つなのだが会話が弾むと息を吐くように他人を中傷することがある。

ある程度は冗談で済ませているのだが、それを不快に思う者も少なくない。調子に乗りやすい面があるのは

彼女自身も重々承知しているが、治す気はさらさらない。

自己批判が出来る程度には自分を客観視できるが、それを活かそうとしないのが難点である。

いわゆる「無能な働き者」であり、彼女が積極的に動くところくなことにならないことが多い。

自分から動かないほうがいい結果になるということは理解しているが、それでも自分から動きたがる。

基本的に人の話を不注意で聞かないため、話し合いを苦手としている。要するに勝手に行動したいというのが本音だ。

一匹狼を気取っているが、それは一匹狼などではなく群れからはぐれた羊に過ぎない。

「上には上がいる」ということを知っているため、いつも下を見て優越感に浸ることが多い。その行動原理は

劣等感からくるもので「上」の連中は努力しているからこそ上にいるというのは理解しているつもりだが

彼女に上昇志向（向上心）が無いので「べつにこのままでいーや」と努力を放棄し半分不貞腐れている。

そういうわけだから、何かを始めるにしても誰かが後押ししないと始めようとしない。

ただ、諦めはやたらと悪いため部活動などがきつかったとしても引退までやり切る気力と根性は備えている。

とはいえ、それは「続けたい」というより「途中で終わりたくない」という気持ちのほうが強いだけである。

いろいろな点で中途半端だからこそ、何かをやる時は最後までやり遂げたいと思っている。

.....というのは建前で、実際は惰性で続けているだけである。

高い理想に対して神経質な性格が災いしているため、理想と現実のギャップによく苦しんでいる。

そんな自分が大嫌いなのだが、それでも変わろうとしないのは自分が一番可愛いから。

エゴとってしまえばそれまでだ（というより、ただのエゴだ）が、やはり自分が大嫌いでも自分が大好きなのだ。

だから、今の自分のままで何とかやりながら生きている。

嫁アピール

これは俺の勝手な見解なんだけどね、自分と同じ欠点を持っている人とはすごく仲良くなれると思う。

自分と同じ欠点がある、というのは言わば自分との接点や共通点があるということなわけなんだけど、

その共通点こそが人と人が親密になれて理解・共感してもらえるきっかけなんだ。だから、共通点が多ければ多いほど嫁にふさわしい。

同族嫌悪というのは、その共通点に気づいていないだけなんだ。

まあ、このキャンペーンだと自分の欠点を投影させてるだけだろという意見に反論できないのは確かだけれど、

同じ悩みを持っている人や同じ短所を持っている人こそ、自分のパートナーにふさわしいのは間違いないよね。

それと、キャラクター説明だけ見ると長所が全く書かれてないだけでなく短所しか書いてないように見えるけど、

簡潔にまとめると「基本的になんでもそこそこできるけど、ちょっと性格に難がある」ってことなんだよね。

さらにわかりやすくするなら「ちょっとだけ個性があるだけの普通の女の子」なんだよね。

全くの無個性じゃないけど、誰かより飛び抜けて個性があるわけでもないっていう、その中途半端さ。

どっちつかずということだからあまり良く思われにくいけど、俺はそれがいいと思っている。

まあでも本音を言っちゃおうと、単に傷の舐め合いをしたいだけなんだ。

俺も嫁も同じ短所を持っていて、それを補いあうでもなく単に互いを慰めあうだけ。

そんな、人間として墮ちるところまで墮ちそうなことをして一緒に過ごしたい。もちろん墮ちるときは二人一緒で。

分かち合えない痛みがあれば、2倍にすればいいみたいな。本末転倒だけど、運命共同体ってそういうことだと思う。

あとさー、これ言ったら今回のキャンペーンを全否定するみたいだけど、ぶっちゃけ嫁の魅力って語りたくないんだよね。

魅力を語るってのは要するに「こんなに素晴らしい嫁の夫である俺ってすごいだろー」って言ってるのと同じでしょ。

ある種の自画自賛みたいなもんで、自作を解説するのと同じくらい嫌だ。

嫁の魅力は俺だけが知ってればいい、他人に知って貰う必要はねーよ、みたいな。

<編者コメント：これは嫁自慢ではない。カウンセリングである。>

【エントリーNo.2 亜場木益世】

亜場木益世

性別：男性

年齢：20

特殊能力：オカマ暴きレズ地獄

■能力原理

女性に変装したオカマ痴漢だと益世が推理した相手に近づき

誘惑しながら服を脱がせていく。

もし相手が女にセクハラをかますオカマ痴漢なら股間が変化してバレるはずだ。

ただし今まで一度も痴漢に当たった事はなく、いくら体をすり合わせても膨らむのは益世の股間ばかりである。

キャラクターの説明

亜場木益世(あばきますよ)は名探偵である。

女に化け女子高生にレズ行為を迫りそのままレイプしてしまう

オカマ痴漢を追うために女子高生に扮して様々な学園に潜入し怪しいと思った相手にレズ行為を仕掛けている。

だが、オカマ痴漢も百戦錬磨の強者。

今まで益世が目をつけレズ行為で白状させようとした相手は

残念ながら全てが本物の女性だった。

しかし、益世は諦めない。女子高生同士のレズという神聖な行為を

汚すオカマ痴漢を絶対に許さない。

嫁アピール

正義に燃えるアダルトな変装キャラ！

今までの変態とは違って真っ当な萌を目指しました！

<編者コメント：どこから突っ込めばいいのか分からない。嫁.....？ 萌え.....?? 一体どういう夫婦生活をイメージしているのか。というか、夫婦をなんだと思っているのか。>

【エントリーNo.3 大魔導師リィ】

大魔導師リィ

■性別：女

■年齢：13歳

特殊能力：サウザンド・ロスト ～リルガミンの物語～

■能力原理

効果：精神力10増加

対象：同マス味方1人

時間：一瞬

時間付属：カウント遅延4ヶ月

消費制約：効果対象の体力-5

能力原理

効果対象にあらん限りの手を尽くし、暴虐の数々を実行する。

具体的にはロストしたキャラのレベル合計が1000を超えるくらい。

しかし、

その行為の裏には溢れ出す情愛があり、

その厚意の裏には隠し切れぬ親愛があり、

その好意の裏には紛れも無き真実の愛がある。

効果対象者がそのことに気付いた時、

効果対象者はリィの大いなる愛に護られ、何事にも揺るがぬ明鏡止水の心持ちを得る。

キャラクターの説明

夜陰に流れる大河を思わず流麗な黒髪と、

宇宙の深遠を映したかの如き漆黒の瞳を持った少女。

幼さの残る、穏やかで丸みを帯びた体つきとは対照的に、

その面立ちは断崖の峻嶺のように気高く、そして強く、

その視線は伶俐にして氷雪のように鋭く、そして冷たい。

性格はツンデレなどという生易しいものでは決してなく、
あえて言うなれば、永久にデレ期の来ないツンデレである。
己に言い寄る者達を冷たくあしらい、
それでも食い寄る者達を無残に蹴散らし、
最後に残った、真に己を愛してくれる者をいしのなかへと送り込む。
ただし、人を遠ざけているわけではないらしく、
彼女の周りには常に冷たくあしらわれる者達が幾人もいる。
もしかしたら寂しがり屋なのかもしれない。認めることはないだろうが。

付き合ってみると意外にも相手の事を気に掛ける性格らしく、
日々、手を変え品を変え、バリエーション豊かなあしらいかたを見せてくれる。
恋人を飽きさせることのないようにという彼女からの配慮が伝わってくる一面だ。
また、彼女はよくプレゼントを持ってきてくれるが、
もちろん箱の中身は毒針か石弓の矢か毒ガス爆弾か、あるいは爆弾である。
あれ？これってツンデレというよりむしろ、
永久にデレ期の来ないヤンデレなんじゃなかろうか。

そんな彼女だが、実のところ誰よりもその愛の心は深く、高く、広く、大きい。
もちろん彼女は安直なデレなどでその愛を表すことはない。
あくまで彼女は冷たく、厳しく、無慈悲に思える仕打ちを向けてくる。
だが、それが.....それこそが彼女から、私への愛を表す手段なのだ。
彼女は私を特別、冷たくあしらってくれる。
彼女は私を特別、無残に蹴散らしてくれる。
彼女は私を特別、いしのなかへと送り込んでくれる。
彼女は、私を、その愛でもって、この世でただ一人、特別な存在として扱ってくれる。
これ以上の至福が存在するであろうか。
だからこそ、私も、彼女を、この世でただ一人、特別な存在として扱うのだ。『嫁』と。

なお、最近、彼女は新たなあしらいかたを開発するべく、
オンラインという未知の世界に手を伸ばし始めた。
まだまだ未踏の領域のため、手探りでの進行となっているが、
私と彼女、二人三脚で、一步一步、わずかだが、しかし確かに前へと進んでいる。

おっと、気付けばいつの間にやらキャラ説明のはずが惚気話になっていた。これは失敬。

嫁アピール

世界は愛で満ちている。

人は愛によって生き、愛によって生かされている。

愛はこの世で最も効率の良いエネルギー源であり、

だからこそ人は常に何かを愛し、その生を享受している。

人は何かを愛さなければ一日足りと生きてゆくことができず、

だからこそ人は常に何かを愛し、我が世を謳歌している。

人は嫁でなくとも愛することができる。

生きるために愛さねばならぬのだから。

人は嫁でなくとも愛し、時に命を懸けることすらある。

愛さねば生きることが出来ぬのだから。

ならば、嫁とは。

俺の嫁とは、如何なる存在を指すべきであろうか。

答えは簡単だ。少なくとも私にとっては。

なぜならば、私はその答えを身を持って実感したことがあるのだから。

俺の嫁。

それは、己が、尽きせぬ大洋の如く愛を注げる相手ではない。

それは、己が、数え切れぬ星の如く愛を語れる相手でもない。

俺の嫁。

それは、己の愛に、たった一つでよい、愛でもって応えてくれる相手である。

あなたは、

あなたの嫁から愛を見せてもらったことがあるだろうか。

あなたの嫁から愛されていると実感したことがあるだろうか。

私はある。それだけで十分だ。

□□□

彼女とは血と、毒と、死の影によって覆われた戦場で出会った。

彼女は初対面の私を無残に扱い、容赦なく墓石の下へと蹴落とした。

第一印象は『何という冷たいヤツであろうか』、それだけである。

その後も、彼女とは戦場で繰り返し遭遇し、そのたびに冷たい仕打ちを受けた。

彼女への印象は悪くなることはあれ、良くなることなど一度としてなかった。

上向くことなどないと、そう、思っていた。

しかし、あの日、戦友の一人と彼女について話しているとき、知ってしまったのだ。

彼女は確かに厳しいが、私に接するような厳しさで、私以外の者には接していなかった。

私は彼女の真意を確かめるべく、持ちうる最高のものを全て持って彼女を訪ねた。

持ちうる最高のものを全ていしのなかへと送り込まれた。

私は確信した。

私は彼女に愛されている。

それからは世界が変わった。

彼女は確かに、私にその愛を向けてくれていた。

それから先はもう、細かく説明するまでもないことだ。

病める時も、健やかなる時も、私と彼女と二人、同じ道を歩んできた。

病める時も、健やかなる時も、これからもずっと、私と彼女と二人、同じ道を歩もうと誓う。

――そう、死が二人を別つまで。



私と彼女が出会った戦場

http://cagami.net/dansyaku_blog/archive/003400.html

私と彼女の馴れ初めから結婚まで ～12万字のウェディングロード～

<http://jbbs.livedoor.jp/bbs/read.cgi/game/52452/1301320388/>

私と彼女の結婚式映像 ～7分50秒のヴァージンロード～

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm15110012>

<编者コメント：ただのWizフリークじゃねーか！ ここまで見てきて最初のカウンセリング嫁があれでもまだ最もマシだったことに驚いている自分がいる>

【エントリーNo.4 石田ギリオ】

石田ギリオ

■性別：男

■年齢：19

特殊能力：なし

■能力原理

なし

キャラクターの説明

関東聖プルミエ騎士学院を退学になった、見習い騎士くずれの自営業騎士。

就職活動に失敗し、今年の春、晴れて吉祥寺で独立開業して人生を転がり落ち続けている。

騎士免許を剥奪されているため、帯剣できず馬にも乗れない。

自営業騎士の主な仕事は『非合法的な不動産経営』『非合法的な金利での金融業』『暴力での問題解決』であり、

そういった事案に首を突っ込んでほこぼこにされつつも、強きを助け弱きをくじく騎士を目指している。

生計はたっていないし、あまりたてるつもりもない。

学院を退学になった理由は、進路相談の際に自分の成績を馬鹿にした教師を斬殺したことによる。

「テメーの進路は墓場だあ〜〜！」

学院の教師を相手に完勝を収めたことから剣の腕前は相当なものだが、

むろん現在では剣の所持は銃刀法違反にあたるため、まったく役に立たない。

騎士としてのプライドは非常に高く、下手に侮辱すると墓場行きの進路を強制されることになる。

頭に血が上りやすく、吉祥寺界隈では『狂犬』と呼ばれている。

半年前、美少女型フランケンシュタインの製造で一山あてようと思っているヴィクター博士に金を貸してしまい、

彼の美少女フランケンシュタイン製造に付き合わざるをえなくなっている。

「次は絶対うまくいきます！従順なタイプの！私の嫁が完成します！」

「そのバーサーカーモードって書いてあるスイッチの設計図を捨てると、もっとうまくいくと思う」

「ネット上で英知を集め、究極の美少女フランケンシュタインを作りますよ。いまスレッドたてました」

「ここにいるやつらに聞くべきじゃないってことは俺にもわかる」

「見てください、いまや時代はレズ！レズなんですよ！『百合最高！』（カタカタ）」

「博士の書き込み、スゲー叩かれてるぜ...」

嫁アピール

馬鹿にするやつはみんな墓場に送ってやる！

<编者コメント：思わず、自分がちゃんと「俺の嫁」Wikiから転載しているのかURLを確認してしまった。また男だよ.....！ しかも性的な要素が全く無く、亜場木益世の方がマシなんじゃないかと思えてくる始末>

【エントリーNo.5 なよ竹のかぐや姫】

なよ竹のかぐや姫

■性別：女性

■年齢：推定不能

特殊能力：輝く月の宮

■能力原理

周囲を心地よい光で包み込み、こころなごやかにさせてくれる。

キャラクターの説明

輝く竹から生まれ、人外の成長を見せる変化の人。

老夫婦の拾われ、なに不自由なく、箱入り娘として育つ。

寡黙でありながら（物理的・精神的の両方の意味で）場を明るくするムードメーカー。

彼女は地の民ではなく月の国の罪人であるため、満月のある日に刑期が満了となり、月へ帰ってしまう。

嫁アピール

かぐや姫の出生は竹から。

まず、この竹が曲者で神秘的。竹は一日で1 m以上成長する。ミネラル豊富。染色体の数が人間とほぼ一致。静寂で静謐にそよぐ竹林の音色は心から美しいと思う。

かぐや姫も同じく急激に成長を遂げ、神秘的で、人のようで人でなく、美しい。

かわいい。有象無象+イケメン五人+帝がぞっこんになるくらい。

媚びない。昔の日本は男尊女卑があまり強くないが、全く相手にしない程自己を確立できている。竹のように（竹を割ったように、ではなく）。

かしこい。悪女に繋がるが、まあ否定しない、というかできない。清廉潔白ではないとだけ言

おう。

真っ白な潔白でない理由は、かぐや姫が罪人だからだ。だが賤しい身分ではなく（庶民に流刑はないからね）、月の人の内でも高貴な身分だと推される。

地球外生命体。人の心を理解できてない節もあったが、求婚譚の間に、徐々に人としての心を持つようになっていく。偽物といえ、家族との別れを惜しむ、非人間の人的成長が見える。そして、最も人間性を具えた時が、天女の衣を着る間際であり、「いまはとて天の羽衣きるをりぞ君をあはれと思ひ出でぬる」の通り、失って初めて気付いたのは、僕も翁も同様だった。そしてかぐや姫は人間性を失い、天へ昇った。

超有名人。おそらく「かぐや姫」を知らない人はいない。知らんやつは人間じゃない。日本で一番古い小説の、それもSF小説の主演級。竹取物語評解が最高。もちろん折口信夫の説は偽説。

もし、仮に、僕が車持皇子だったとしたなら、鍛冶屋を口封じしたのちに求婚する。そして婚約する。嫁に。たとえ嘘の物語でも偽物の枝でも。恥を捨ててでも。

かぐや姫の幸せを願ったための異聞として、帝と婚約を果たして幸せに暮らしましたとさめでたしめでたしハッピーエンドもある。

だがもちろん、それらは最も原なるかぐや姫とは誤った結末であると断定せざるを得ない。かぐや姫は帝の嫁ではない。帝の嫁などではない。

※人ならざるかぐや姫の寿命は計りかねますが、不死の薬を舐めたかぐや姫は、いまだ月か天にか潜んでいるかも知れません。

ただ、富士山の煙は已み、アポロ11号が飛び、月から来た他の天人も聞きません。

私の傍にかぐや姫は居ません。どこかに居るかもしれませんが、それらはやはり私の外であり、知れたことではありません。知っているのは、私の内に有ることだけです。

<編者コメント：やはり何が何だか分からないが、とりあえず性別が女性というだけでホッと胸をなでおろした自分がいる。>

【エントリーNo.6 刃 刀可】

刃 刀可

性別：女性

年齢：18歳

特殊能力：誓いを胸に

■能力原理

護るべき対象が危機に晒された時、胸が痛みに近い感覚を得る。危機の度合いによって痛みの強さも変わる。

痛みが弱いときは身体能力が強化される程度だが、痛みが強くなると護るべき対象の元へ転移することができる。

キャラクターの説明

やいば とうか。

●体格

身長やや高め。運動をしている為スタイルはいい。胸はやや大きめ。

●髪型

腰まで伸びる黒髪ロング。それをポニーテールにして纏めている。

●性格

真面目で厳格。感情をあまり表に出さないクールな性格。

「もし生徒会長だったら『氷の生徒会長』ってあだ名がつくタイプ」と言われている。

尤も、表に出さないだけでちゃんと喜んだり怒ったりする。

●能力

基本的に万能優秀。スポーツという枠組みならば水泳は特に秀でている。競泳水着がよく似合います。

ただし、「遊び」の分野には疎い。

我流ではあるが剣を扱うことができる。剣道部には所属していないし、彼女が剣を振るう姿を見る者も滅多にいないので誘われることもない。

●家族

両親は共に他界。

「刃 葉破（やいば ようは）」という1歳下の義理の弟がいる。

弟との初めての出会いは4歳（葉破は3歳）の時。父親が再婚した相手の連れ子であった。

父親を取られたという嫉妬の感情から、新しい母と葉破に対して良い感情を持っていなかった。

転機が訪れたのは彼女が6歳の時……両親が魔人によって殺されたのだ。

事件は夕方の一家団欒の最中に起きた。

突如、玄関を破り押し入ってくる魔人。両親は子供達を守るため抵抗するが、あっけなく殺されてしまう。

子供部屋へと逃げた刀可と葉破。

階段を一步一步上がってくる音。死が迫ってくる。

クローゼットの中で声を押し殺して隠しているが、それも限界であった。

心が完璧に折れているが故に声を出して泣くという当たり前のこともできなかったのだが、階下から聞こえた両親の最期の声が、皮肉にも彼女の心を現実へと引き戻し——声を出してしまいそうになった。

だが、それを葉破が刀可を強く抱きしめることで留める。

少年は何も言わず、ただ表情だけでこう伝えていた。

「僕が姉さんを守る」、と。

結果、少女は救われた。

刀可が声を出さなかった為に魔人が2人を発見するのが遅れ、その間に魔人警察がやってきたのでどこかに逃げていったのだ。

少女を救った少年は、しかし事件以前の記憶を失くしていた。事件のショックから精神を守る為に忘れてしまったのだ。

壊れる寸前の心だったのに、それでも少女を守ろうとした少年。

生前の父親の言葉——「弟を守るのも姉の役目だぞ」——がリフレインされる。

そして、彼女は誓った。

「私が葉破を守る」、と

少女は誓いを胸に成長した。

弟を守る為に我流とはいえ剣を使うことを覚えた。誓いの強さからか、魔人にも覚醒してしまった。

自分がいなくてもやっていけるよう、真っ直ぐな男にしようとする時には厳しく接した。

2人を預かっている親戚には「刀可ちゃんは厳しいけど、優しいね」とも言われた。

少女は、理想の姉になった。

それなのに——

「……守りたい。それだけの筈なのに……！」

葉破を弟として見ようとすればするほど、

「胸が痛い——」

——葉破。

「苦しい、よお……」

つまりはブラコン。

抑えようとしているが、甘えたがり&甘えさせたがり。

平然な顔でソファーとかに並んで座ったりするが、内心は胸がバクバクいってる。

その状態で寝たふりで葉破にもたれかかったりする。それだけですごい幸せ。

また葉破が寝て、膝枕をすることになるのもすごい幸せ。

しかし、そういったことをした後に自室などで1人になったら、

「私は……守るべき弟になんてことをしてるんだ——!？」と自己嫌悪に陥る。

さすがに人目のあるところではやらない。

葉破は葉破で、血の繋がった姉弟だと思っているので（記憶を失った為）

「……姉さん相手にドキドキするんだけど、これってやばいよなあ」

と悶々している。

●属性

黒髪ポニテクーデレ義姉剣士少女

嫁アピール

ぼくのかんがえたさいこうのおねえちゃん。

可愛い。すごく可愛い。

クールぶってるけど内心バクバクで、その後ベッドでごろもだすお姉ちゃんとかすごい可愛い。

学校とかでは抑えようと頑張ってるんだけど、弟を見かけたらついつい目で追っちゃって、そんな自分に気付いて凹むお姉ちゃん可愛い。

もっともらしい理由をつけて一緒にいようとしたり、友人とかに「ブラコン？」って指摘されて顔を真っ赤にして否定するお姉ちゃんも可愛い。

かわいいなー。本当かわいい。

ギャルゲくせえとかエロゲくせえとか言われようと、好きなものは好きなんだよ！

クーデレお姉ちゃんばんざーい！ 剣士少女ばんざーい！

<編者コメント：やっとまともな嫁キャラが来たことに、部外者ながらホッと一安心する始末。なんで他人の嫁を見てホッとしなきゃならんのだ>

【エントリーNo.7 蓬生 尽】

蓬生 尽（よもぎ つくし）

性別：女性

年齢：18

特殊能力：感動の揺り返し

■能力原理

正負問わず感情の動きに呼応し発動判定が行われる。

成功した場合、牙の生えた巨大な口が顕現し、感情の動きの原因となった対象を排除しようとする。

一定時間経過するか対象が排除された時点で消失する。

発動率は感情の動きの大きさに比例し高くなる。

また、一度発動すると次回以降は同程度以下の感情の動きで発動する確率が著しく減少する。

能力原理

嫉妬の対象を排除するために発現した能力。

原理は不明だがあらゆるものを?み砕き、飲み込む「口」が顕現し、感情の動きの原因となったものを排除する。

彼女は過去に二度この能力を発動させている。

一度目は父を独占している母への嫉妬によるもので

二度目は、母を失い悲嘆にくれる父を見た後悔によるものである

二度の『失敗』から彼女は自らの心を意図的に閉ざしており、並大抵のことでは彼女の精神を揺さぶることは出来ないだろう。

キャラクターの説明

色白黒髪の天才美少女。

こと勉学に関して天賦の才を持っているが、それを鼻にかけることはなく非常に人当たりはいい。

ただ、過去父母を無くした際におった心の傷のせいであろうか深い関係の友人を作ることはなく、誰に対しても一定の距離を持って接している。

だが、本心から他者との接触を拒絶しているわけではないようだ。

根気よく接すれば彼女の凍りついた心を溶かすことが出来るかもしれない。

年単位で凍りついた心を溶かすのは容易なことではないが、その分成功した際の感動もひとしおだろう。

彼女の心が解ける瞬間。

きっとそれは幸福な時間だ。

たとえその先に何が待ち受けていようと、その瞬間は幸福の絶頂に違いあるまい。

嫁アピール

自分では足元にも及ばない超越的な能力者に、ただ相手の傷に触れているって一点だけで慕われるってのは非常に幸福なことだと思う。

だけど、その幸福も時とともに鈍化していくのは自然の摂理。

だから「幸福な関係を構築すればするほど命の危機が近づく」スリルで幸福を積み上げていく時の感動の減少を減らし

「一番幸福な関係のまま完結させる」ことが出来ればそれはもう至上の幸せと言って過言ではないと思う。

その結果、相手に忘れられない大きな傷を残せるなら、なおさら冥利に尽きる幸福だと思う。

<编者コメント：ガチ度が急上昇してきた。元々キチガイホイホイであったこの企画だが、ガチで来ても、ガチを避けても総じてキチガイとなることは避け得ない運命か。>

【エントリーNo.8 猿喰はさみ】



猿喰 はさみ

猿喰はさみ

性別：女

年齢：17歳

特殊能力：はやくめをだせかきのたね/ださなきやはさみでちょんぎるぞ・HEY!

■能力原理

●今の自分にもっとも必要な人物の、名前、姿、居場所がわかる能力。

8時間以内にその人物と仲良くなないと、その人との縁は永遠に切れてしまう。
すでに仲の良い人物が表示されることもある。その場合は改めて仲良くなる必要はない。

ステータス：8/3/8/3/8

FS名：コミュカ（霞が関ビル単位）

効果1：特殊キャラクター召喚 ＊

タイプ：召喚

範囲+対象：同マス

時間：1ターン

非消費制約1：最終ターンのみ

非消費制約2：スタメンだと使用不可

消費制約：1度しか使えない

効果2：再行動

タイプ：瞬間

範囲+対象：同マス味方1人

時間：一瞬

非消費制約1：最終ターンのみ

非消費制約2：スタメンだと使用不可

非消費制約3：自分が召喚したキャラクターのみ

消費制約：1度しか使えない

このキャラクターを召喚する行動提出時に、そのキャラクターを
味方オリジナル魔人召喚（ステ合計30／特殊能力あり）の範囲で自由につくることができる。
能力はガイドライン。名前、性別、学年、キャラ説明、能力原理も自由に決められる。
それらは全て対象制約の対象になる。
発動率：8%

キャラクターの説明

●猿喰はさみ（さるばみはさみ）。珍しい人間嫌いのコミュ者。友達は1万を超えるが、
心を許す相手は少ない。ただし、子供はみんな大好き。

傑出したコミュカを持つ「十二コミュ支」達とは仲がよく、なかでも末永めしあは
妹か娘のようにかわいがっている。

●すべてのコミュカ魔人に言えることだが、魔人になった要因は「生まれつきのコミュカの高さ」
ゆえであり、
魔人だからコミュカが高いわけではない。

●両親は二人とも魔人だが、SLG指定能力者。

- 幼い頃に両親を何者かに誘拐され殺害されており、その復讐を計画している。
- クールだったり底抜けに明るかったり、性格はあまり安定しない。
基本的に後方からツッコミをいれたりするおいしい立ち位置にいる。
人当たりは非常によく、また、年上には敬語を使う。
- 策士であり、彼女の周囲の人間は、知らないうちに彼女の駒として利用されている事が多い。
- 内向的な趣味で、小説を書いたり、ハサミを使ってお裁縫や工作、飛び出す絵本を作るのが好き。

嫁アピール

なんていうか、レジでお釣りをもらっただけでもにっこりとお礼を言えるような人が好きなんですけど。

そういう人当たりの良い人ってコミュ力高いじゃないですか。あたりまえだけど。

そうするとやっぱり人気者になっちゃって、自分なんか相手にされないと思うんですよ。

だから、コミュ力高いけど、実は人間嫌いっていう二面性のあるキャラにしました。独占欲によってできたキャラ付けです。

あとはそれだけじゃなくって、やっぱりただ、明るいだけじゃなくって影のあるキャラが大好きなので、それもあります。

しかも、策士。策士なキャラって良いですよ。なんか「女郎蜘蛛の理」のイメージというか、裏で糸を引くタイプが好きなので。

でも、別に周りの友達が被害を被るってことはないと思います。ただ自分で行動していたつもりが、

いつの間にか彼女に利する行動をしていた。とかそんなかんじでしょうか。

糸つながりでお裁縫趣味ってことになってます。名前ともぴったりなので。はさみですからね。お裁縫と、あとは飛び出す絵本。これを黙々と一人で作ってるんですよ。コミュ力高い人気者が。

すごいかわいくないですか！？「やった！上手くできたぞっ」とか一人ごと言ってるんです。ああかわいいなあ。

でこれを近所の子供とかにあげてるんですよ。人間嫌いなのに子ども好きって、そういう人たまにいますよね、

まあ、はさみさんは子供が大人と比べて汚れていないとか、別にそういう考え方は持ってはいないはずですけど。

単純にかわいいものが好きなんだと思います。

で、性格はやや不安定というか、よくわからない感じになっちゃってますけど、こういう複雑な性格が好きというか、

実際人間って、フィクションのキャラと比べると複雑で、不安定ですよ。キャラが一貫していないというか、

そういう書き方をフィクションですると、キャラが書けてないと言われるんですけど。

相手によって態度を変えるし、立ち位置も変わる。この方がリアルだと思います。まあ、性格や口調に関しては、SSを書くつもりなので、そっちを参照してくださいね。ちょっと変わった口調なので。特徴的な仕草としては、よくVサインを繰り返します。それで「いーとーまきまき」な感じで腕をくるくると回しながら踊ったりします。

あと、両親を殺害されたっていう、暗い過去を持っています。人間嫌いな理由はここから来ています。両親を失くしたあとは、祖父母の家で育てられたようです。現在はひとり暮らし。それと名前の由来ですが。もともとコミユカキャラは「寅貝きつね」が一番初めにできたキャラで、その名前の付け方になぞっています。

基本的に名字が強者、名前が弱者ってイメージでつけています。ただ、寅貝きつねは「虎の威をかる狐」が元ネタなので、一見名字のほうが強そうに見えるけど、実はそうじゃないかも。っていう関係性を持たせています。

今回の元ネタは「猿蟹合戦」です。「猿」がつく名字のうち、割りとネガティブな名字を探した所、「猿喰」が見つかったのでそれにしました。十二支の申は「人間」という意味もあるので、人間嫌い、人間への復讐という意味も込められています。

そういえば、丁度最近めだかボックスに似たような名前が出てきて困っています。名前はひらがな三文字という縛りがあるので、蟹=はさみで決定。上記の設定ともぴったり合っていて、まさに嫁にふさわしい名前であると、偶然ですけど運命をかんじましたね。本当にありがとうございます。

魔人能力を使うと、飛び出す絵本のようなものがでてきて、対象の人物に関する情報を見ることができます。この能力は、彼女の復讐のための能力みたいなものです。復讐の対象はこの能力で見つけることはできません。

彼女に害の無い必要な人物じゃないといけないので。ただし彼女自身はあまりこの能力に頼るのは好きではないようです。

現在の十二コミ支の仲間や、婿とかはこの能力で見つけました。

<編者コメント：ここまできて、やっとかさ共感可能な嫁が出てきた。「特徴的な仕草としては、よくVサインを繰り返します。それで「いーとーまきまき」な感じで腕をくるくると回しながら踊ったりします」←かわいい。しかし、共感可能ということは、この企画的にはイマイチということなのだろうか>

【エントリーNo.9 小鶉アザミ】

小鶉アザミ

性別：女

年齢：実年齢6歳/設定年齢17歳

特殊能力：**RaPRAS -IMP**

■能力原理

読み方はラプラス・インパーフェクション。

根源的情報統合確定予測機能（Radical-Prediction-Rationalize-Absolute-System）の略。

末尾のIMPはImperfection（不完全）を示す。

五感を初めとする全身の感覚器官及び大脳基底核の一部をコンマ数秒だけ飛躍的に機能向上させ、観測者から半径約50メートル以内に存在する物質、生物、エネルギーの配置を完全に把握し、これから起こり得る動的な要素を全て脳内でシミュレーションすることで射程範囲内に起こるありとあらゆる現象を確定的に予知することが出来る。

簡単に言えば空間そのものを『見切る』能力。

もっと簡単に言えば発動中は回避率100%の無敵モードになれる能力。

本来は『転校生』クラスの強力な魔人能力として設計されたが、膨大な情報の処理に耐えうる各神経系器官の強度を本体の改造手術の失敗によって獲得できなかった為に、能力そのものが非常に不安定な上、持続時間が極端に短いという致命的な欠点を持つ。

小鶉アザミがこの能力によって予知できるのは発動から約7秒間の事象が限界であり、大脳が計算の負荷と反動に耐えられないため使用後は脳機能の停止によって死亡する。

効果：全無効 85

対象：自分 ×1.0

時間：1ターン ×1.0

制約：自分死亡 55

（支払：1ターン後 ×0.8）

$100 - 85 + 44 = 59$

発動率 59%

キャラクターの説明

さうずらあざみ。

顔付きは整っているが目つきが鋭く、冷たい印象を与える黒髪の少女。

鼻先のそばかすがトレードマーク。

瞳の色は黒みの強いブラウン。シンプルなデザインの銀縁眼鏡をかけている。

髪型は後ろ髪がうなじにかからない程度のショートヘア。

背が高く、やせ形でスマートな体型。

左胸の心臓の直上にあたる部分に製造ナンバーを示す痣がある。

希望崎学園内の情報収集及び監視の為にとある秘密機関が配属した人造魔人の一体。

一般生徒として学園に潜入しており、番長グループや生徒会、各部活の動向、一部の強力な能力を持つ生徒の詳細、学園の管理体制などを調査している。

機関の特殊工作員用カリキュラムを修得しており、総合的な個人戦闘技能は人造魔人達の中でも上の下程度に位置するが、改造手術に失敗しているため能力が扱い辛く、欠陥品のレットルを張られている。

組織からは利用価値の低い末端構成要素として考えられているため、任務終了＝学園卒業後は直ちに『処分』される事がすでに決定されており、本人もそれを自覚している。

自らの意志で人生に目的を持って行動することができる全ての魔人や人間を尊敬すると同時に羨望、嫉妬しており、そのまがい物として作られ、あまつさえまがい物としても出来損ないである自分の存在に強烈なコンプレックスを抱いている。

クラスの生徒からは真面目で大人しく人付き合いも良い、特に目立った所も無い生徒として認識されているが、明確かつ不自然と悟られない程度に周囲との距離を置いている。

これは機関側からの学園内に潜入する際の基本指令の一つであり、彼女本人の意志でもある。

性格は冷静で落ち着いているが情に脆く、発覚すれば即処分もあり得るレベルの指令外行動を個人的な感情からとる事もしばしば。

具体的にはハルマゲドンを避けるための裏工作を行ったり、生徒会や部活の粛清対象になった生徒を影ながら保護したりしている。

場合によっては調査中に気に入った生徒を守るため、その本人も預かり知らない場所で自分の命を直接的な危険に晒す事すらある。

こうした行為は監視者としての立場に基づく客観的な情報収集という与えられた本来の役割に反

発する精神的な幼稚さ、及びコンプレックスから生じる非常に低い自己評価のために多少の無茶な行動にも躊躇が無い事を理由とする部分大きい。

という分析を彼女は自身に下しているが、実際の所その本質は、自分の知り得る範囲にいる人間が傷付く事に黙ってられないという、ごく単純な優しさの表れである。

が、本人はそれを自覚しておらず、こうした衝動的なヒーローごっこじみた行動をとる度に強い自責と嫌悪感に陥っている。

苗字の『小鶉』は機関から割り当てられた戸籍上の名義だが、名前の『アザミ』は彼女本人の命名。薊の花それ自体に深い思い入れがあるわけでも無いが、棘だらけのいびつな形状の植物にどこか自分を重ねているのかもしれない。

現在2年生。残り時間は約1年半。

『処分』については既に覚悟を決めているが、出来る事ならまがい物として生まれた自分にも、何か存在してきた意味が欲しいと願っている。

◆パーソナルデータ

身長：164cm

体重：45.4kg

スリーサイズ：B76 W57 H78

好きなもの：キャラメル、猫、閉所

苦手なもの：自分、生魚、屋外

◆ステータス

攻撃力：16

防御力：4

体力：7

精神力：3

FS：0

FS名：自己理解

所持武器：千本

嫁アピール

要するに凄く不器用な子なんです。

命令を無視して感情のままに生きられるほど強くもなれないし、かといって周囲の人間の苦難に黙って目を瞑れる程冷淡にもなれない。

自分が生まれてきた事に恨み辛みを感じているけど性分が優しいせいでどこにもぶつける事がで

きず、それでいて自分自身の優しさを素直に受け入れて胸を張れるような自意識とプライドもない。

何もかも割り切って与えられた職務を淡々と果たしていれば楽になれる事を知っていながら、誰かから与えられた物でない自分の居場所と価値をどこかで探し、色んなジレンマや自己矛盾を抱えて悩み、もうすぐやってくる死の影に怯えながら、それでも理由や自覚はどうあれ自分以外の誰かの為に生きようとしている。こういうキャラが一番応援したくなります。超かわいい。めちゃくちゃ甘やかしてやりたい。

こういう子が信頼できる仲間と納得できる死に場所を見つけて、たった数秒間を稼ぐために能力を使いきって死んだりしたら超燃えるし超萌えます。

苗字の小鶉はアナグラム。

名前のアザミは響きと花言葉の『独立』『触らないで』から。

能力名は物理学用語のラプラスの悪魔から付けました。

ビジュアルのイメージは冬目景と鶴田謙二の描く女の子を足して2で割った感じ。

<編者コメント：最後にしてかなり優秀な嫁が来たのではなかろうか。まったく共感できない。しかし、嫁に対する熱いパトスはホンモノだ。こいつはかなりキチガイじみている。>

いかがであっただろうか。編者の感想を一言でまとめるなら、「すごく、きもちわるい」である。ガチ参加した人々にとって、これは中学校の卒業文集レベルの黒歴史になるのではないだろうか。「ダンゲロス俺の嫁」は引き続きキャラクターを募集している。この企画を読んで「オレの嫁の方がかわいい」と思ったあなたは参加されるとよろしいだろう。

編者：架神恭介

イラスト：稲枝ケイジ

ダンゲロスSS 一回戦

各自が「自分のキャラクターが勝利するSS」を書き、観戦者の投票により勝者を決定する「ダンゲロスSS」。現在、二回戦が終了し、準決勝へと駒を進めているが、その中からSSのGKがオススメする一回戦第八試合「バロネス夜渡」のSSを掲載する。なお、他のSSは、ダンゲロスSSwikiで全て読むことが可能である。<http://www49.atwiki.jp/dangerousss/>

【出場キャラクター】

伝説の勇者ミド（でんせつのゆうしゃ みど）

設定

『勇者』渡葉 美土（わたりばみつち）

希望崎学園の生徒。

小柄、貧乳、伊達眼鏡をかけている。おとなしくてちょっと暗い印象の美少女だが、心の中では男のちんこを貪ることばかり考えている、どこにでもいるビッチ。肉感的な誘惑を苦手とするため、甘言やペテンをよく用いる。あだ名はミド。

ある日、社会科準備室で伝説の剣「まるごし」を引き抜いてしまったところ、希望崎学園進路相談室・就職課（通称ダーマ）から『勇者』と認定された。

本来は部室棟の最深部にいたと言われる魔王を倒しに行く使命を押し付けられているのだが、まずは軍資金という事でトーナメントに参加する。また、有能な人材はスカウトしたいとも考えている。

【伝説の剣「まるごし」】

「そこに剣があるように見える」だけの剣。

実は、「まるごし」などという剣は物質的には存在しないのだが、誰がどう見てもそこにあるように見える。つまり、初見の相手からすればただの剣。

見えるからミドも引き抜くことができたのであるが、しかし剣は存在しない。よって、振ろうが刺そうが何も斬れる事はない。まさに丸腰である。

「身体スキル」：【すばやさLv.2】 【たいりょくLv.2】

「知的スキル」：【かしこさLv.3】 【おちつきLv.2】

「固有スキル」：【おもいだす [魔]】 【みりょくLv.2】

「オプション」：【伝説の剣「まるごし」Lv.3】 【ナイフLv.2】

※以下は場外で行動を共にする脇役であり、MAPには登場しない。

『盗賊』逆立 当真（さかだてあたま）

希望崎学園に掃いて捨てるほどいるモヒカンザコ。

ミドがキビダンゴをひとつあげたところ、付き従うようになった。

放し飼いにしておくのと民家のタンスやツボから薬草や種もみを強奪してくるのでとても便利。レアアイテムを持ってくると、ご褒美にセックスしてもらえる。

『賢者』姦崎 絡（かんざきからむ）

触手。ミドを前に、「ビッチ行為などという愚かな事はやめるんだ。

快樂に浸かっているだけでは動物と変わらないぞ！

君のためにも相手の男のためにもならない。君の心は、精神は何の為にある！」

と、股間に触手を突き入れながら語った。

「気持ちよかったので」と、そのまま連れ回されている。

『力士』股ノ海（またのうみ）

力士。土俵の外でも常にまわし一つで生活し、また、まわしをしていない事も多いという。

修行熱心で、よく裏山で稽古をしている姿が目撃される。

大外刈り、巴投げ、サマーソルトキックなど多彩な技を持つ。

魔人能力『おもいだす』

直接会話した人間の言葉を、半永久的に記憶しておける能力。

一度に覚えておけるのは相手が言葉を区切るまでを「セリフ1つ」とし、

セリフ3つまで。セリフ1つはどんなに長くても、単語のひとつひとつに

至るまで詳細に記憶できる。

相手のセリフの終了と同時に『ふかくこころにきざみこむ』と念じることで発動。

4つ以上覚えようとすると、古い順に記憶から完全に抹消される。

裸繰り寝閻裂練道（らくりのやみさきれんどう）

設定

異能殺人者集団・裸繰り寝一族の一人にして、古今東西の武術を修めた格闘家。日本の某スラム街出身。

ただひたすらに強者を求めて旅を続けている。その身体能力、精神力、洞察力、格闘技術、戦闘経験はいずれも人間の規格外。

彼が裸繰り寝となったのは己に立ち向かう者はどんな相手であろうと容赦無く打ち倒す、そのあまりに非情な強さへの執念故である。

裸繰り寝としては珍しく命を奪う事に固執しないが、必要以上なまでに効率的かつ合理的な戦いを

する為、大抵の場合相手を殺してしまう。

あまりあっさり死なれては楽しむ暇も無いと、最近手加減を仕方をその辺のチンピラ相手に練習しているが、あまり成果は出ていない。

武器は持たない主義だが、必要に迫られれば環境や相手の武器を利用する事も。

普段は兼石 次郎という偽名を使っている。今大会のエントリーネームもこの名。

少年時代はマフィアが主催する非合法の賭け試合で無敗を誇り、「ノックアウトマスター次郎」の呼び名で知られた。

35歳の独身。

外見的には着物に袴姿の精悍な大男。履物はブーツである。黒髪を短く刈り込んでいる。

野宿する為の道具が一通り入った袋を担いでいる。気紛れで無愛想だが意外とユーモアの通じる性格。

今回の大会にはたまたま日本に滞在していた際に、魔人の集まる格闘大会が開かれるとの噂を聞き付け、ふらりと参戦した。

魔人能力『永劫』

練道の半径20メートル以内に居る人間の動きを1秒間止める。

これは「1秒間あればどんな敵だろうと息の根を止められる」という練道の自信が具現化したものである。

事実、今までこの能力を受けて生き延びた者は居ない。

原理的には裂帛の気合とともに放たれる発勁を魔人能力で強化し、「動けない」という認識を1秒間だけ押し付ける。

能力を受けた者は一切の身動きが出来なくなるが、意識ははっきりしたままである。

発勁は練道を中心として放射状に広がる為、隠れている敵にも有効。ただし遮蔽物に遮られると効果は減衰する。

勁力を完全に遮断する為にはおおよそ厚さ10センチ程度のコンクリート壁相当の強度が必要。

能力使用后、再度使用する為には1分間のインターバルが必要となる。

バロネス夜渡（ばろねす よわたり）

設定

近くのバーで働く男性店員兼バウンサー。店の改装費用の為に出場を決めた。

セクシーなドレス風衣装と首元の赤いスカーフ、巨大なアフロヘアーが特徴的。

吸血鬼に憧れ、いい年こいた今でも努力次第で本当になれると思っている。

見た目はムチムチ美女風といえないこともないかもしれない。

バロネス夜渡というのは源氏名。本名は千歯車 炒二(ちばぐるま しょうじ)。

【飛行Lv.4】

人間であるはずの彼の主な飛行原理は気合い。

端から見ると優雅に飛んでいるように見えるが実際体力を物凄く使う。

「身体スキル」：【強靱な肉体Lv.4】 【代謝Lv.2】

「知的スキル」：【老獪Lv.3】 【怪しさ満点Lv.-2】

「固有スキル」：【ブラディ・シージ[魔]】 【飛行Lv.4】

「オプション」：【ナイフLv.2】 【スカーフLv.1】

魔人能力『ブラディ・シージ』

吸血鬼の使役の力っぼい力。

自らの血を付けた対象を自在に操る。

飛び回らせたりも出来るが速度は重量に反比例するので重いものは超鈍足。

元々意思を持って動いている者を操るにはかなりの付着量を必要とする。

同時操作可能数に制限はないがあまり多くを同時に操作すると処理しきれないと思う。

実はぶっちゃけ血である必要はなく、体液ならOK。

(このことは秘密にしている)

『ワン・セカンド・ビフォア・ザ・タヌキ』

戦闘開始のアナウンスと同時に、バロネス夜渡の視界が開ける。

見渡す限りの竹、竹、竹。

木漏れ日に鳥の囀り、葉のこすれ合う音と小川のせせらぎ。

これらのみが世界を支配するかのごとき静謐なる空間美。

これが全て紛い物であるとは、事前に知らされていなければ到底認識できないほどだ。

(竹林ステージって話だったわねー)

これが戦いでなければ格好の憩いの場であろうに。

バロネス夜渡は短く嘆息すると、自らのアフロに手を突っ込み、ナイフを取り出した。

手頃な竹を一本、ナイフで斬り落とす。
竹の倒される音が、静寂をぶち壊してゆく。

鋭い切り口の即席竹槍を造り上げると、その強さを確認するために手に押し当ててみる――鮮血が竹に滴る。十分使用に耐える強度だ。

「とりあえず量産しちゃいましょうかね」

適当に十数本丈夫そうな竹を見繕い、容赦無く切り倒していく。

血塗れの掌を周りに擦り付けていくその姿は、さながら怪しげな儀式めいて映ることだろう。竹林が切り開かれる音に、オナガの群れが飛び立ち、がなりたてる。

「生き物まで再現してるとは……どれだけ凝り性なのよ」

不意に飛び出す影。
夜渡が咄嗟に振り向くと、そこには一匹のタヌキ。大方今の音に驚いたのだろう。ひょいと持ち上げ、撫で回す。

「毛並みとかもそれっぽいのねー」

しばらく撫で回していたが、ひょいと隙をみて腕の中を逃れると、どこかに逃げ去ってしまった。

逃げ去る方向を見やると、開けた空間。
遠くには小川も見え、ここがマップの中央部であることを示している。

「おおー中々いい感じの川じゃない」

しかし、のんびりと風景を楽しむ時間は、彼には与えられなかった。

不意に空気の重くなる雰囲気を感じ、身構えるバロネス夜渡。
遠目に映る、着物姿――兼石次郎に、相違あるまい。

先程の音でこちらの位置を把握しての接近であることは間違いなからうが、あの動き。

奇襲や待ち伏せを目論むわけでもなく、悠然と歩いてくる強者の余裕。

正面からぶつかれば無事では済むまい事は、明らかだ。

高まる圧力に、動物達が逆方向へと走り去ってゆく。

「まあそっちがその気なら、やりようはあるのよ！」

竹槍を一本、槍投げの要領で全力投擲！

真っ直ぐに飛んでいったそれに、次郎は即座に反応して見せ、構えを取る。

手刀が竹槍の穂先を叩き落とさんという瞬間、急に切っ先が向き直り、角度を変える！

彼の一撃を回避し、隙を突いてボディを襲った『ブラディ・シージ』での不意討ちはしかし、兼石次郎には通じない。

叩き落としを空振ったその右腕が反射的に軌道を変え、竹槍を横薙ぎで粉碎！

竹槍は最早原型を全く留めず、砂めいて風に舞う。

体勢すら、歩みすら変えず対応する次郎。何たる反射神経、集中力、パワー！

「ちょっと、そんなに余裕で対応されるとおねーさん凹むんだけど……」

あれが自分の身体に叩き込まれれば――彼は戦慄する。

尚も歩み寄る兼石次郎。

彼我の距離がじりじりと詰まる。

そしてその差が十メートルほどに達した辺り。

不意に立ち止まる兼石に、訝しんだ刹那。

「『永劫』」

叫びと共に、急加速する兼石。暴力的なまでの圧力が一気に跳ね上がる！

(避け――動けない！)

動きを物理的に止められている訳ではないようだが、動いても無駄だという意識に身体が支配されつつある……

これこそが兼石次郎、もとい裸練埜閻裂練道の魔人能力『永劫』。

一秒の間、相手の動きを完全に止めてしまうほどの、強烈な発勁だ。
そして彼ほどの達人を前に、一秒もの静止は文字通り致命的だ！

迫る練道、動かぬ夜渡――

拳が振り抜かれる。必殺の一撃に、割れるような小気味よい音が響く！

錐揉みしながら、バロネス夜渡の身体が大きく吹き飛んだ。
空中で受け身を取るようによろよろ漂うが、さほど勢いを殺せぬまま竹藪に頭から突っ込む。

「うぬー。アフロがなければ即死だったかも」

倒れ伏したまま呟いた夜渡。
鼻血をスカーフで拭い、ゆっくりと起き上がった。

彼の身体には夥しい"切り傷"はあるものの、直撃はない。
『ブラディ・シージ』により操っていた竹達を割り込ませ、ダメージを軽減したためだ。
それでもなお粉碎した竹片のみで夜渡に多くの損傷を与えているあたり、攻撃の威力が窺い知れるのだが。

「……ふん、面白い」
久々のまともな相手に、兼石次郎は舌なめずりをする。

ゆったりとした足取りで、練道が夜渡の元へ近づく。
歩みの遅さは余裕だけでなく、能力使用時に出してみせた最高速を、より速く見せるためものだろう。
バロネス夜渡はそう断じる。
彼自身としてはせこせこ動いて徒に倒すまでの時間を早めてもつまらん、という思いもあるのだが、それは夜渡に分かるはずもない。

高空に飛び上がり、距離を置く。

打ち手が見つからぬ以上、迂闊には近づけない。
あのフィジカルに加え『永劫』なる能力、もっと近距離で使われればその時点で詰みかねない。

「今やれることは――」

上空から鳥瞰すると、竹々の間にセーラー服姿の少女が映る。
迷わず決断、彼女の元に向かう。

渡葉美土は、セーラー服に眼鏡の、外見は普通の女子高生といった風体だ。
装飾された額当てと、抜き身の剣がその印象を大きく覆していることを除けば、だが。

「アンタ渡葉ね！ 話があるわ」

呆けたように夜渡を見上げる姿に、話を聞いているのか彼は不安になるが、剣を鞘に納めていく様子から、とりあえず話し合いはできそうと判断する。

「兼石次郎――アイツは化け物めいた強さよ……アタシでもアンタでも勝てないような。
だからアタシと組みましょ。当面、あの男を止めるのが最重要なはずよ、お互いね！」

しばしの無言。

渡葉美土が、鞘に手を掛け言い放つ。

「お前みたいな怪しい奴となんて組まない」

「あらそう！ じゃあ好きにきなさい！」

いつもこうだ！なぜこうも他人に信用して貰えないのか！
自分の見た目は棚に上げ、夜渡は憤慨する。

「いいもーん勝手に上から援護してやるから」

美土に聞こえない声量で、バロネス夜渡は独り、呟いた。

「やべっ見失った」

竹藪内で追跡を巻かれ、夜渡は思わずこぼす。

次に発見した時は、既にミドと練道が相對している！

「ふんぬー疲れてきた！」

急いで飛び向かい、練道の真上辺りにつくと、ナイフを構え投げの姿勢を取る。

練道が動き出す。

ミドに向かい突進する隙を見計らい、ナイフを投擲！

しかし練道は、瞬く間に攻撃を終えている！ 大きく吹き飛ばすミド！

あの様子では肉片と化していてもおかしくはない程の勢いだ。

ナイフは後ろ手に指で挟み込まれ、振り向いた練道が投げ返す。

尋常ではないスピードで、同じ軌道を逆向きへ飛ばすナイフ。

夜渡の肩口を貫くと、そのまま虚空へ飛び去った。

集中が乱れ、飛行安定が崩れる。

傷口を押さえ、必死に立て直そうとしているバロネス夜渡を、更なる脅威が襲う。

数本の竹を棒高跳びの要領でひん曲げ、空中の夜渡へと突っ込んできたのだ！

夜渡は身を振りながら降下しかろうじて回避、練道はそのまま離れた位置に着地。

その勢いで地面が大きく窪む！当たればひとたまりもない所であった！

飛行に疲れ着地したバロネス夜渡に、既に練道は接近しつつある――

その距離は詰まり、既に数メートル！ 確殺範囲だ！

「『永劫』」

冷酷なる発動宣言と共に、練道は拳を振りかぶっている。

夜渡の頭に、またも認識が強制されんとする。

動けない！

動けない！

動けない？

動け……

動け。

動け！

動け！！

動け！！！！

「ザッケンナオラー！」

拳が迫り、そして――

練道の身体に、夜渡の拳がめり込んだ。

「何……だと……？」

練道の顔に、初めて狼狽の色が浮かぶ。

「オカマの気合い舐めんなオラー！」

間髪容れずに、強烈な回し蹴り！

脇腹を打ち付けた練道が、軽く吹っ飛ぶ！

一体何が起きたと言うのか？

『永劫』が気合いごときで破れる能力とは思えないが……

――そもそも彼、バロネス夜渡の飛行が気合いによる、というのは正しい認識とは言えない。

ただの魔人に、空など飛べる筈もない。
飛べるとしたらそういう能力者か、そういう種族の生物だ。
そしてバロネス夜渡は、前者である。

彼の『ブラディ・シージ』は血の触れた対象を操る……では、最も血に触れているものは？
つまり、彼自身の肉体——これを自由に操れるのだ！

これこそ、バロネス夜渡の飛行原理。
尤も、本人は気合いで念じれば飛べるとしか認識できてはいないのだが。

更に言うならば、これは飛行に限った話ではない。

例え頭が「動けない」と認識しようとも、意識が残っているならば自らの全身を無理矢理に駆動させる事が可能！

体勢を建て直そうとした練道に、右ストレート！
しかし練道は崩れた姿勢のままそれをかわし、稲妻めいた正拳突きで反撃！

一瞬回避が間に合わず、顔に痛烈な打撃がかすめた。
勢いで膝を折る夜渡に二撃目が迫るが、夜渡は能力(きあい)で強引に回避！
大きく後方に飛び退き、事なきを得る。

「光栄に思え」

練道の声。

「お前が初めてだ。俺の『永劫』を破り、一撃を加えたのは」
精悍な顔に一瞬笑みが浮かんだが、すぐに仏頂面へと戻った。

「——だが、この裸練埜閻裂練道と比べて、お前の体術は未熟極まりない。
少しは心得があるようだ。だが、所詮は付け焼き刃。
俺を満足させるには不足だな」

「言ってくれるじゃあない。……長ったらしい名前ねアンタ」

しかし練道の発言は尤もである。

バロネス夜渡は肉体強度こそ自信があるものの、正式な武術の心得があるわけではない。

「でも別に、アタシは格闘家と違うもん。アタの土俵で戦う訳じゃあないからねー！」

指を鳴らすと、十数本の竹槍が夜渡の周りを囲むように展開する。

『ブラディ・シーゾ』の真骨頂、大量の武器による包囲戦術だ。

それを見るや否や、練道が突撃する。

包囲の及ばない至近まで迫り、格闘で叩き潰すつもりだろう。

夜渡はそれに対し、自らも無謀にも前進する！

二人の身体が接触しようかという距離まで接近した、その瞬間――

血に染まったスカーフが首元から離れ広がり、練道の視界を奪う。

一瞬ながら生まれる、攻撃の遅延。

直後、突如夜渡の腹部から突き出た竹槍が、練道の身体をも貫いた。

相手の死角――自らの背後から、自分ごと串刺しに！

その一撃を皮切りに、次々と飛び込む竹槍！

槍衾が二人の肉体に容赦無く襲い掛かる。

迎撃の構えをとろうとした練道を抱き締め、相討ち覚悟の自爆技に打って出たのだ。

「ふふ……アタに抱きつけるなんて役得ね」

「下らん真似だな」

抱き締められたままの状態、強烈な頭突き！夜渡の頭部からどくどくと血が流れる！

迫り来る竹槍を、半ば封じられたままの手で掴み止め、夜渡の脚に突き入れる！さらに流血！

再び迫る竹槍を、身を振って回避、目標を逸した竹槍がバロネスの身体を抉る。さらに流血！

さらに追撃！さらに流血！

幾度と無く繰り返される攻撃は、徐々に、夜渡側のみを一方向的に削ってゆく。

ついに腕の拘束が外れ、夜渡の体はその場にずりりと崩れ落ちる。

最早死に至るレベルで流血した夜渡。その血は、練道の全身をも返り血で真っ赤に染め上げている。

血――？

止めの一撃を加えようとした彼の、動きが俄に鈍る。

手刀が夜渡に達するかという瞬間、練道の動きは完全に止まった。

直後操り人形のような不自然な動きで練道の体がゆるゆると動き始める。

バロネス夜渡の返り血をしこたま浴びせられた彼の体は、血により支配されつつあるのだ！

ナイフを拾い上げ、自らの身体を切り刻もうと動く腕。

「ふん！」

その動きが一旦止まる。

気合だけで、操作から逃れようとしているのか、小刻みに全身が震えている。

「やべっ血ちょっと足んなかったかな」

周りの竹の残骸全てをかき集め、練道の身体に纏わりつかせる。

しかし大した量ではない！

夜渡は記憶を頼りに、ありったけの血を付けた物を思い起こし、それを飛来させる。

小石から雑草と言った有象無象が続々と飛び来て、練道に向かっていく。

そして最後に飛び来るのは――タヌキ！

血のついたボディを練道に擦り寄せ、更に夜渡の血をなすり付けていく――

見た目は滑稽だが、この状況では強烈なだめ押し！

この物量に、再び練道のナイフを持つ手が、自傷の動きを始める。

「『ブラディ・シージ』で、身体をばらばらにしておしまい」

「この狸め……」

どちらに向けた言葉とも分からぬ声をあげた練道。

振りかぶられるナイフ。

刃が体に入った刹那、悟ったような表情を浮かべたかと思うと破顔し、哄笑する。

「ふん。中々に楽しめたぞ！」

それが、彼の最後の言葉となった。

大の字に寝そべりながら、バロネス夜渡は空に言葉を投げ掛ける。

「おーい。空素ちゃんだっけ。

そろそろおねーさん帰りたいんだけど、帰って休みたいんだけどー」

《……何を勘違いしているかは知りませんが、まだ戦いは終わってはいませんか？》

呆れたような声が帰ってくる。

「え一次郎ちゃんはもう動けないでしょ！ 殺すまで殺んなきゃダメー？」

《はい。兼石選手は脱落しました。ですから、バロネス選手と渡葉選手の一騎討ちですね》

ぱきり、といった乾いた音。

踏み折られた竹の響かせる音に、彼は顔を上げる。

苦笑しながら、

「狸寝入りとは……中々強かね勇者様」

渡葉美土の姿が、そこにはあった。

練道の一撃を受けた筈の彼女が無事——それは彼には信じがたい事実であった。

如何にして即死級の攻撃をあの華奢な身体で耐え抜いたのであろうか？

夜渡には知る余地も無いが、ミドの無事は偶然であり、必然であった。

普段の相手とは違い、おおよそ戦闘員とは思えぬ肉付きの彼女に対し、練道の無意識下でほんの幾ばくかの、手加減を試そうという邪な思いが混じったこと。

美土が防御に構えた伝説の剣"まるごし"諸共打ち砕き、その衝撃で彼女ごと仕留めようとしたがため空振り、直撃を免れたこと。

これらが相俟って、拳圧で吹き飛ぶだけのダメージで事なきを得ていたのだ。

だがそんなことを知る由もないバロネス夜渡にとって、その生存は疑問でしかない。

(まさか能力内容は真っ赤な嘘で、ホントは別能力隠してるとかじゃないでしょうねー)

真正面から突進してくるミドに対し、生まれた躊躇が対応を遅らせる。

能力のために辺りの物に血を付ける余裕はない！

急いで立ち上がり格闘で打ち破る構えを取ろうとするが、

「『永劫』」

その声に思わず練道を見やる夜渡。

明らかに違う声音におかしい、と向き直った時には、ミドのナイフが眼前まで迫る。

「ドッソイオラー！」

敢えて掌で受け、返す蹴撃。半ば反射じみた対応である。

ミドの次なる剣撃に、慌てて脚を引き戻す。

手に刺さったナイフを、能力で引き抜く。

そのまま180度回転したナイフが、持ち主の命を狙う――

ミドは冷静にバックステップ、小川の深みに飛び込む！

遅れて、ミドのいた場所にナイフは深々と突き刺さった。

「ペテン好きねアンタ。正義の下、正々堂々～とかないの？」

バカにしたような、挑発的な笑みを見せるミド。

「それ騎士と勇者ごっちゃにしてない？」

「あー、それはあるかも。そういやアンタらタンスとか漁る人種だったわ」

水に浸かったミドの制服は濡れ透け、下着が露になるあられもない姿だ。

女子高生のそんな様子に心奪われぬ男はいまい、と言いたいところだが、バロネスはその格好に何ら興味を覚えることなく溜め息をつく。

「もー。年頃の女の子が、はしたない」

ぱんつを指差すミド。

「欲しい？」

「要らないわよそんなの。アンタこれ放送されるんだから、映っちゃう前に降参しときなさいな」

「おっさんそんな作戦とるつもりだったの？ キモーイ」

「このガキ、レディーに向かって何て暴言ー！」

怒りに任せて『ブラディ・シージ』で攻め立てようとして、思い止まる。

彼女の立ち位置、それは川のだ真ん中。そしてその場所は――

「流れ水が苦手なんでしょ、バンパイアさん」

「ぬーー！」

パロネス夜渡は別に吸血鬼というわけではない。

しかし、彼は小川に佇むミドに対し、効果的な攻撃はとれない！

流れ水が血を洗い流し、支配を拭い去ってしまうためだ。

小川に浸かっている彼女も身体が冷え切っていくであろう事から長居は出来ないだろうが、持久戦の選択肢はありえない。

現在進行形で流血中の身の方が、どう考えても待ち戦術を採れるわけがない。

全て計算尽くでの動きだろう――夜渡は自らの油断を恥じるとともに、彼女に対しちよっぴり手心を加えよう、という甘温い感情をかなぐり捨てる。

そして今、自らに残された手は――

「全力突撃！」

地を蹴りだし、正面にミドを見据える。

剣を正眼に構える彼女の方が、明らかにリーチに優れる。

夜渡は構わず前進し、両腕を振りかぶる。

腕を斬られても斬られた手先で殴りにいけばよい、その決意の下での特攻戦術！

まあ決意といってもよく考えれば死んでも復活させて貰えるのだから、両腕捨てるなど何の躊躇いもなく出来ることではある。

ミドも冷静に状況を把握すると、脚で水を跳ね上げ、伝説の剣を横薙いだ。

突き出された両腕に、水飛沫がかかり。
肘下辺りを、刃が迫る。

過たず両の腕を捉えたかに見えた伝説の剣"まろごし"は、そのまま敵を通り過ぎ――

「「え？」」

強烈な二重撃が、かよわい女子高生へと突き刺さった。

起き上がる様子のない少女。
彼女を睥睨する真っ赤なオカマ。

「あり？ 何が起こったのか分かんないけど勝てば官軍。
この高貴なる夜の女王に血を捧げられた事を光栄に――
あ、そういや失血しまくってたんだ……」

頭を抱えながら、その辺の竹にもたれ掛かる夜渡。

竹がバキバキと折れ、無様に頭を打ち付ける様を、夕又キだけがじっと見つめていた。

第一回戦第八試合勝者――「バロネス夜渡」

《――こちらリョーゴク、何という番狂わせ！

場内、未だにザブトンが乱れ飛んでおります！ 実際危険！

バカ！ウカツ！といった罵声も鳴りやみません！

優勝候補の股の海、スモトリ・ニュービーの狸山にまさかの敗北！初黒星となりましたー》

講評 バロネス夜渡

こちら、ミドや練道のSSに勝るとも劣らない、非常にハイレベルなSSです。

文章力もさることながら、このSSはマップのギミック利用に優れており、

竹槍を量産して攻撃や防御に応用する辺りは、まさにこちらの狙い通りといったところです。

そして、展開的にはその格闘性能で戦局を支配する練道とのタイマンが軸となっています。

特に秀逸だったのは、『ブラディ・シージ』による『永劫』破りで、

キャラ設定の「気合の飛行」を納得させつつ、『永劫』で動けずとも強制的に身体を稼働させるという、

能力の応用という点に関しては、一回戦で最も意外かつ鮮やかに見せてくれたSSだと思います。

能力名からも恐らく、これはキャラ作りの時点から考えられていた応用法でしょう。

高耐久力のスキルによって練道の攻撃を受ける事ができたのも、キャラ作りの大切さを示しています。

ミドもまた、狸寝入りをしてやり過ぎしたり、地形を利用して血を媒介とするバロネスの能力を封殺するなど、

しっかりと油断ならない雰囲気描写されており、対戦相手の個性も良く書き分けられています。

タヌキという単語の様々な側面に絡めてSSを展開させていくのはこのプレイヤー独特の手法で、地力の高さが窺い知れます。ミドとの決着がやや不思議な感はあるものの、文句の付け所のないSSです。

【ハイライト】

~~~~~

「でも別に、アタシは格闘家と違うもん。アンタの土俵で戦う訳じゃあないからねー！」

指を鳴らすと、十数本の竹槍が夜渡の周りを囲むように展開する。

『ブラディ・シージ』の真骨頂、大量の武器による包囲戦術だ。

~~~~~

個人的に意外でしたが、複数の武器を同時操作して敵を包囲するという応用は、第八試合では本人のこのSSのみでした。プロログでナイフを操作していた姿が印象的だったからでしょうか？

講評：珪素

学園魔方陣Aのダンゲロス「ホストたちの村」

「学園魔方陣Aのダンゲロス」とは芝村裕吏氏デザインのテーブルトークRPG「Aの魔法陣」のシステムを元に戦闘破壊学園ダンゲロスの世界観を再現した、ダイスチャット形式のテーブルトークRPGである。今回は過去のセッションの中から、ストーリー形式でまとめられ、読み物として成立している第一話「ホストたちの村」を収録する。

なお、読み物形式のまとめこそないものの、各セッションのログは保管されているので、リプレイに興味のある方はwikiの方をご覧頂きたい。<http://www35.atwiki.jp/gakumahoa/>

【プロローグ】

クラスメイト達と共に、大型バスで林間学校へと向かう希望崎学園の生徒達。

しかし彼らの乗ったバスが呪われた地大勢湯に差し掛かったその時、

車内で起きた魔人学生同士の小競り合いが、バスの窓ガラスを破壊。

両者の戦闘に巻き込まれた生徒2名と教師1名が、崖下の樹海へと転落してしまう。

転落した彼らが目覚めたのは、人類を拒む絶望の樹海――ではなかった。

大勢湯市の外れ。筆筍の木が発生するガスも及ばない深い森に囲まれるようにして、ひっそりとその農村は存在した。

彼らを助けたのはゲンタと名乗る冴えない中年男と、

道に迷って偶然村に居合わせたヤクザ、夜魔口魔眼。

親切な村人に助けられ、療養する彼らだったが、同時に奇妙な事実に気付く。

日中は扉を閉ざし、日が暮れてから農作業を行う、農民達の奇怪な行動。

彼らは食事を摂ることもなく、ただただ安酒だけを飲んで生きているように見えた。

村人達の不自然な態度に隠された秘密。そう――彼らは人間ではなかった。

人を拒む森の中に作られたこの村は、彼ら下級ホスト達の隠れ家。

村人の正体は人間の女性を喰らうことを好まない、力の弱いホスト達だったのだ。

そして5日後……生徒達の傷も癒え、魔眼と共に村を出発しようとした矢先。

ホスト達の隠れ家を狙い、恐るべき襲撃者が動き出す。

その名は半人半ホスト（ドンペール）のホストハンター、安出堂フルチ！

全てのホストを憎悪する復讐鬼の、突然の強襲。

敵を正面から打倒し、ホスト達の村を守るのか。

人間としてホストハンター側に寝返り、下級ホストを狩るのか。

どちらの選択でも、彼らの目的は一つ――このホスト達の村から生きて帰る事。

【プレイヤーステータス】

<黒凧黄里>

ライフ：3 精神力：3

経験点：3

設定

黒凧葬祭の娘。

全体的に清楚可憐で儂げな雰囲気を漂わせ一見育ちの良いお嬢様に見えるその容姿とは裏腹に渋谷女子高生の伝統文化を重んじ読み難いメールを送ることで有名。

口調も軽薄でウザいし態度もでかい上にすぐに不満を撒き散らす。実際のところ育ちは悪い。名前はくろなぎおうりと読む。きりと読まれると別に妹好きじゃないからと怒る。

魔人能力『妄葬憑依黒凧式』

対象の大切に思っている人、忘れられない思い出、トラウマなどに関わる人物の姿が黒凧黄里の姿に成り代わる。

相手は「あれは3年前に死んだ美代子じゃないか...どうしてここに...?」のようになる。

成功要素

「身体スキル」：【清楚可憐Lv.1】 【逃げ足Lv.1】

「知的スキル」：【難読文章作成Lv.2】 【狂気耐性Lv.2】

「固有スキル」：【妄葬憑依黒凧式〔魔〕】 【情報収集Lv.4】

「オプション」：【携帯Lv.3】 【現金Lv.3】

<真野五郎>

ライフ：3 精神力：2

経験点：6

設定

元魔人公安の希望崎学園社会科教師。

第7次ダンゲロスハルマゲドンにて死亡するも、地獄の底から蘇った。

特技であるナイフ投げには一層磨きがかかっており、一度死んだことも影響しているのか、今や幽霊等の実態が無いものも射抜けるレベルに達している。

しかし、寄る年波には勝てず、髪もところどころ白髪が交じり、だんだんと体力が落ちてきている。

1969年事件に参加しており、禅僧の恐ろしさを身をもって知っている。

「禅僧には近づくな！いいか、絶対だぞ！」

魔人能力『テレポーテーション・ライト』

右手で投げたものを半径30m圏内にテレポートさせる能力。

右手一本で投げたものでないと移動できない。

成功要素

「身体スキル」：【元鬼畜公安Lv.5】 【低持久力Lv.-2】

「知的スキル」：【元ベテラン教師Lv.3】 【責任感Lv.1】

「固有スキル」：【テレポーテーション・ライト [魔]】 【異能レベルのナイフ投げLv.5】

「オプション」：【ナイフ3本Lv.3】 【なし】

コンボ

【ナイフスローイング [連]】－【異能レベルのナイフ投げ】＋【ナイフ】
異能レベルのナイフ投げが外れるはずがない。

【責任感を持ったナイフ投げ [連]】－【異能レベルのナイフ投げ】＋【責任感】
責任感を持ってナイフを投げる。外れるはずがない。

【説得 [連]】－【元ベテラン教師】＋【責任感】
ベテラン教師だった経験を生かし、相手を説得する。
不良生徒だって更生しちゃうかも。

【不意打ち [連]】－【元ベテラン教師】＋【元鬼畜公安】
説得、または説教をしておいて、少しでも油断したら殺す。
相手が口上を言っている間や、自分の話の間でも迷うことなく攻撃する。
勝利のためなら手段は択ばない。

<夜魔口魔眼>

ライフ：3 精神力：3

経験点：4

設定

夜魔口組若頭、隻眼の魔人

圧倒的な存在感と包容力で周囲から恐れ慕われている

大物の雰囲気はバリバリ漂っているが

あまり細かい事を考えておらず、ヤクザなのであまり賢くは無い

普段は優秀な舎弟の冷酷で天才的な頭脳と気苦労で支えられている

【子分ゾンビ】

取り巻きの賑やかし。

4～5人いるが脳ミソが腐っておりどうでもいいような簡単な雑用しかできない。

威勢は良いが戦闘になると転んだり、巻き添えを喰って死ぬので戦力にも盾にもならない。

車の選手とかもできない雰囲気だけの日用品。

魔人能力『魔眼「V死ね魔」』

強烈な眼力によってVシネマ空間を形成する

Vシネマ的な音楽や効果音、演出がなされ

重苦しい雰囲気に包まれる為「一般人」や「名前のない脇役」は威圧され無力化される

魔人であれば無力化はされないがVシネマの緊張感によるプレッシャーを受ける

ただしVシネマ的行動を取れば影響を受けない

成功要素

「身体スキル」：【魔人ヤクザLv.5】 【男前Lv.2】

「知的スキル」：【冷静さLv.1】 【勉強Lv.-2】

「固有スキル」：【魔眼「V死ね魔」 [魔]】 【射撃Lv.4】

「オプション」：【チャカLv.4】 【子分ゾンビLv.1】

<結昨日缶>

ライフ：3 精神力：3

経験点：12

設定

缶が大好きすぎて魔人に覚醒してしまった少年。

なんかすごいアキカンがあると聞いて探してる。

割と無口だけど人づきあいが悪いわけではない。

魔人能力『かんかん』

あらゆる缶（缶ジュース、缶詰、スプレー、ドラム缶など）を召喚

成功要素

「身体スキル」：【猟奇メガネLv.2】 【屈強Lv.1】

「知的スキル」：【威圧感Lv.2】 【人間性を見抜くLv.1】

「固有スキル」：【かんかん[魔]】 【大抵のものなら一瞬でアナルにぶちこめるLv.5】

「オプション」：【ヤバいくスリ入りの究極の媚薬カレーLv.4】 【VカッターLv.2】

第1話『ホスト達の村』

林間学校に向かう希望崎学園のバスの中で、再び起こってしまった事故。

車内で起こった魔人学生同士の戦闘の余波に巻き込まれ、

生徒の黒凧黄里と結昨日缶、そして教師の真野五郎は、

破壊された窓ガラスと共に、旧大勢湯市を見下ろす崖の上から放り出された。

真下には有害ガスの漂う恐怖の魔界、生存確率0%の大勢湯樹海――

――しかし彼らが次に目覚めたのは、森に囲まれた小さな農村の民家の中だった。

人を拒むはずの大勢湯樹海の外れに存在する謎の農村……

彼らを助けたのは、その村人の一人であるゲンタであった。

そして目覚めた彼らの傍らでもう一人、この村の人間とも違う隻眼の男が煙草をふかす。

「まあワシ等のシマやないとは言えここも夜（ごくどう）の世界やからの。堅気の人間を置いてはいけんわ」

男の名は魔人ヤクザ、夜魔口組若頭の夜魔口魔眼。

彼も偶然、生徒達と同じ時期にヤクザの慰安旅行に迷い、この村に流れ着いていたのだ。

幸運と人の親切さに助けられ、絶体絶命の状況から命を拾った3人。

だが、村に留まり傷を治す中で、生徒達と魔眼は、奇妙な事実気付いた。

日中は扉を閉ざし、日が暮れてから農作業を行う、昼夜逆転の農民達。

しかもその農作物を食べるわけでもなく、口にするものはワンカップ大関だけ――

……そう。彼らは人間ではなかった。人目を避けるようにして作られたこの村は、

女性を喰らう事を好まない力の弱いホスト達作った、

上級ホストによる消去を免れるための隠れ家だったのだ。

村での5日間の療養生活の中で生徒の転落の傷も癒え、4人は出発の準備を進める。

しかしその矢先、彼らの元に、血相を変えて飛び込んでくるゲンタ。

「ホスト狩りだあ！ 田吾作と茂介がやられた！ ホストハンターがこの村を襲ってくるだあ〜！」

そう……下級ホスト達の天敵は上級ホストではなかった。

ホストハンター。ホストとの戦闘を生業に報酬を受け取る、ホスト専門の傭兵。

唯一の脱出路、山の中腹に燃え盛る火。突然の強襲だった。

村人には恩がある。直接話をつけるため、魔眼と五郎がホストハンターの説得に向かう。

炎を背負って立つ、一人の青年の姿。炎の影に、二つの眼光だけが冷たく浮かぶ。

「おい、止まれ。テメーもホストか……？」

敵は半人半ホスト（ドンペール）の復讐鬼。

ホスト最大の弱点『爆弾』を使いこなす爆弾使い、復讐鬼安出堂フルチ！

復讐を動機とするフルチに説得は通用しない。その凶行を前に、魔眼が立ち上がる！

「ホストハンター！！ おどれには仁義ゆうもんがあるんか！！」

魔人ヤクザ若頭として培われた、絶大な格闘技術で愚直に接近する魔眼！

だが、敵もNo.1ホストの血を引く百戦錬磨のホストハンター。

拳銃とグレネードランチャー……彼我の遠距離武装の差が勝敗を分けた！

苛烈な爆撃の前に膝を突く魔眼！ だがフルチはその戦闘で、ある事実気付く。

「ホストの気配は感じねえ……テメェらホストじゃあねえな！？」

血の共鳴でホストの気配を感知する、半人半ホスト（ドンペール）のスキル。

「じゃあ取引してやるッ！ 村まで案内するなら爆殺するのは勘弁してやるぜ！」

しかし彼が持ち出した条件は、やはり一行にとっては受け入れ難いものだった。

安出堂フルチの目的はあくまで村人の皆殺し。全てのホストが復讐対象なのだ。

「……殺してもかまわんか？」

黒風黄里と結昨日缶が遅れて戦闘の現場に駆けつける中、

炎の中、ゆらり、と一人の男が立ち上がる。社会科教師——真野五郎。

いや、彼はただの魔人教師ではない。かつて魔人公安として多くの魔人を相手取った。

唯一つ、『ナイフ投げ』という異能のみで敵を戦慄せしめた、恐怖の男。

五郎が動く。狙いはただ一つ、全生物共通の急所……頭部！

「殺す！ 殺す！ 化物（ホスト）共は皆殺しだ！」

グレネードランチャーによる無差別の爆撃が降り注ぐ。

対して五郎は魔人公安仕込みの観察力と体術でこれを互角以上に凌ぎ、

無謀な攻撃の中に生まれた一瞬の隙で……必殺のナイフを投擲する！

炎の光によって生まれる死角。フルチの頭部にナイフが深く突き刺さる……

いや——浅い。

「クッ……こいつ、ナイフ使いか……油断した。頭に食らうとは……」

「ここは使うしかないか……！ 『あの能力』を……」

これが闇に生きる夜の種族、『ホスト』の再生力――

持久力に劣る五郎にとっては、敵はあまりにも相性の悪い種族だった。

一瞬動きの鈍った五郎に、すかさず止めを刺しに走るフルチ。

その刹那、振り上げられた手を掴む影があった。

「ワシのタマア取りたけりゃあ軍隊でも連れてこんかい！！」

グレネードの爆撃の前に一度は倒れたはずの……夜魔口魔眼！

「やってくれるぜヤクザ野郎がッ！テメーからブチ殺してやるッ！」

「おうおう言うやないけ！！殺れるモンならやってみィ！！アホンダラァ！！」

重傷の魔眼に、至近距離からの炸裂弾頭パイルバンカーが迫る……！

この一瞬。結昨日缶の伶俐な眼差しは、この機こそを狙っていた！

短絡的なフルチの行動の隙を突き、召喚したガソリン缶をフルチのアナルにぶち込む！

――猟奇メガネ！ その本領！！

「……微動だにしないことをお勧めする」

「ら、らめえ！！！」

動けば、それは即ち直腸内ガス爆発プレイ。爆弾使いのアナルがガス爆発だ。

恐怖の宣告を前に、みさくら語で喘ぐ安出堂フルチ――勝敗は決した。

そしてフルチのそんな様子を前に、自身の楽しみのためだけに動き出す者がいた。

そいつの名は一行の中で最も危機感のない女、黒風黄里。

炸裂する精神系魔人能力、妄葬憑依黒風式！

「ああっ、らめえっお姉ちゃんに見られてフルチっ恥ずかしくておちんぽミルク出ひゃうのおお
` おおっ！！！」

安出堂フルチの記憶の中にある姉、安出堂ライミの姿を自身と入れ替える事により、

精神の平衡を失ったフルチを完全に一行の下に従える事に成功した黄里。

全ての障害は取り除いた……残るはこの村を出る事のみ。

――4人を取り巻く運命は、そこまで甘くなかった。

麓からこちらに近づく、無数の炎の明かり。松明を掲げた村人達……

手に手に農具を構え、フルチを含む5人を取り囲んだ村人達は叫ぶ。

これからこいつらを叩き殺す――

「なんじゃいワレ」「……ふん、はめられたのか？」

村人が敵に回ったのか？ 一体何が起きているのか……！？

「おうおう、なんのつもりや？ワシ等になんぞ恨みでもあるんかい？」

進み出た魔眼の問いに、彼らを取り囲む村長……いかるす耕三は答える。

「君達がそのホストハンターを村に招き入れたんじゃあないのか？」

「それでもなければ、我々のような力の弱いホストの存在にそいつが感づいた理由が説明できないだろう！」

言いがかりに反論する4人。しかし平和的だったはずの村人達は聞く耳を持たない。

「どちらにしろ、この里を知る君達には……消えてもらう！」

議論は通じない。そう判断するや否や、即座に動いた男がいた。結昨日缶！

50名からなる下級ホスト達をベビーパウダーの煙幕で牽制、

奴隷化した安出堂フルチで身を守り、農具による無数の傷を受けながらも……

魔人能力で下級ホストを巻き込んで統制する本体、いかるす耕三へと到達する！

「バカな！？止めろオオッ！！」　ズボオッ！

いかるす耕三のアナルに、頭から突っ込まれる 安出堂フルチ！！

前代未聞の猟奇的攻撃を前に、半死半生となり悶える村長、いかるす耕三。

だが……彼も、この異常事態の元凶ではない。

「んんっ、フルチ感じゅちゃってっ！！ ああ` あ` あっ、村から感じてるのお` お` おおっ！！」

「すごいホストがあ` あっ！ 店長クラスのホストが村にいてっフルチ感じちゃってるのおおおおおおお——っ！！」

奇声と共に喘ぎながら強大なホストの存在を知らせるフルチ。

いかるす耕三や村人を遥かに超える力の上級ホストが……村の中にいる！

村長の撃破に混乱する村人達をよそに、包囲の開いた村の方向へと駆ける。

村に戻り、まだ正気を保っていたゲンタと合流する一行。

「店長クラスのホストならば、自分より格の低いホストを支配できる」——

ゲンタは、ホストという種の宿命……絶対の上下関係の存在を口にする。

「そこまでだな。ククク……捕らえてきてるじゃあねえか、ホストハンターをよ……」

背後からの声。これまでの村人ホストではない。邪ホスト……

ホストハンターの引渡しを要求する邪ホストを前に、ゲンタの表情が一変する。

「下級ホストは上級ホストの命令に逆らえないだ……ホストの上下関係は絶対だべ……」

「……………グガアアアアアアッ！！！」

村のどこかに潜む、店長クラスのホストの思念による支配を受けたのか。

邪ホストと共に、凶暴化したゲンタが一行を挟み撃ちにする！

恐らく、邪ホストは黒幕の配下。しかし善良なゲンタを傷つけるわけにはいかない……！

2人を相手取り、元魔人公安の真野五郎が格闘戦を繰り広げる。

人質を取られているに等しい困難な状況の中、五郎のナイフ術が邪ホストの手足の腱を切断。

挟み撃ちを切り抜けた後、邪ホストを村外れの水車小屋へと拉致、拷問を開始する。

「ひい！ 言います言います！ お、俺らの上に居るのは……」

「『ケフィア』のAITさんです……！」

——ついに明かされた黒幕の名……かつての石松町の支配者、『KEPHIA』のAIT！！

AITは石松町の抗争に破れた後、ホスト達の村で他の上級ホストから身を隠し、ホスト支配のスキルによって、村人達を人知れず自らの配下に変えていた……

そして、ホストハンターの襲撃にも、彼の裏からの手引きがあった。

情報に誘い出された安出堂フルチは、上級ホストAITの気配を察知する――

それを魔人達とぶつけ合わせ、双方が弱ったところでAITが止めを刺し、

フルチから、No.1ホストの血統安出堂一族の力を吸い尽くし、復権を果たす。

AITの卑劣な計画が明らかになったその時、フルチが大きく喘いだ。

「居るうっう` うついますのおおっ！！ 小屋の外おっ おあつ、外に出てるのおっ！ たくさん邪ホストが小屋の外に出てえへえっ！！」

「店長とホストの気配が取り囲んでいましゅのおお` お` おおおおっ！！」

水車小屋の外……黒幕AITは既に、邪ホストと共に一行の包囲を完了していた！！

「ほう。あっちからお出迎えかいな」「探す手間が省けたな」――

しかし彼らも、ただ翻弄されるばかりではない。逆襲の構えだ。

事件の黒幕を始末し、この村から生還する……！ それが彼ら全員の目的なのだ！

「ムカつくねん、奴ら！勝手に石松町のトップを決めるような勝負始めやがって！！」

「あの女ホストも……！ 遼介（熊）とかぬかす熊も……安出堂の血の力で全員潰したるわ！！」

身勝手な野望を叫ぶAITに、夜魔口魔眼の怒りが爆発する！

「AITとか言うボケはどいつや？！！ ……ぶっ殺す！！」

その場にいたアキカンを踏み潰し、真正面から邪ホストの軍勢と対峙する魔人ヤクザ。

「ワレもこうなりたアないんやったら、舐めた口聞いとったらあかんど！！」

「余所者のヤクザごときがあっ！ そんなシャバい脅しでこのAITがびびると思っとんのかい！！」

「ほな死ねや！！」

「うおおおっ兄貴ッ！ 俺達も助太刀しまっせー！」

魔眼に続き、子分ゾンビが、真野五郎が、そして安出堂フルチが動く！！

それを迎え撃つ大量の邪ホスト達が、AITへの到達を阻む――しかし！

魔眼の片目が光を放つ！ 魔眼「V死ね魔」――威圧力によって形成される、Vシネマ空間！

「な、何や！？ こんな雑魚ホスト共の村、お前らかてどうでもええやろ！？ 農民なんてどうなるうと知らん顔すんやろがあっ！！」

凄まじい圧力を前に、動揺を隠せないAIT。そのため、彼は気付けなかった。

彼の横に、既に安出堂フルチが回りこんでいた事を。

そして彼がこの一瞬……卑劣なホストへの憎悪で正気を取り戻していた事を！

「ホストは……殺す！！」

反応したときにはもう遅い。魔眼の銃弾がAITの動きを止め……！

「オラアアッ！！」　――フルチの強烈な蹴りが炸裂する！
安出堂ライミーー！？

その気迫に、かつて自分を一撃の下に放逐した女ホストの面影を幻視するAIT。そこに。
「クズがあっ！！」　――心臓に突き刺さる魔眼の手刀！
Say yahさん――！？

この流れ。そして男らしさと攻撃方法。伝説のホストと同じ……ならば次は。
「ウオオオーッ！！」　――この熊の如き咆哮と鉄拳は、まさか……！
遼介（熊）――！！！！

AITは（いつの間にか全国中継されていた）カメラの前で、フルチ、魔眼、五郎の3連コンボによる公開処刑の制裁に斃れた。
「ありがとうございますだ、ありがとうございますだ」――
AITの支配力の消失で、村人もゲンタも、いかるす耕三も正気に戻り……フルチは姿を消した。再び村は下級ホストだけの村になった。パワーバランスが正されたのだ。
（村長は缶の激しいアナル責めが癖になってしまったようだが……）
倒した邪ホストの財布から、扎扎实り現金を漁るタフさを見せる黄里。
一方、猟奇メガネの缶はAITのヤバイクスリをゲットしていた。
「ほなウチの組のシマでホストやりたいヤツはオオサカに來いや」……
魔眼の誘いに、ゲンタは首を振る。
「いや……オレ達は今までどおり、この村で農作業をして暮らしていくだ」
「この村なら、女を食らうのが好きでねえオレ達でも生きていける……AITのような上級ホストに支配される事もねえだ」
ここはホスト達の隠れ里。力を持たない下級ホスト達の村……
「結局旅行の目的地はどっちや！！ボケェ！！」
「……やれやれ、早く帰って缶でも愛でるか」
「修学旅行より面白かったから私らちょう得したんじゃね？」
「さて、俺は帰ってから林間学校を来年から止めるように提言しなくちゃな」
こうして、彼らの不思議な体験は終わった。
ホストの村を救った4人は、何事もなく日常に帰っていくだろう。
そして下級ホストの村も、これからは誰にも知られずに……
深い森の中で、ひっそりと隠れている事だろう。

Session Clear. 第1話 終

本文：珪素

表紙の魔人

白金翔一郎

性別：男

所持武器：木刀

攻撃力：8 防御力：7 体力：6 精神力：5 剣道：4

特殊能力：『秘剣・鏡面殺』

肉を斬らせて骨を絶つを体現した剣技。相手の攻撃をわざと受け、攻撃中で他の動きがままならない所に反撃の一撃を加える同時処理。相手の攻撃は必ず命中する。

同じマスの相手一人にのみ有効、カウンター能力である（自分のターンで能力を発動し、相手が自分を攻撃することで発動）。効果（即死）

キャラクターの説明

野生の猿以上の身体能力を持ち、樹齢千年の霊木で作った木刀を操る魔人・・・では、あるものの、本人は熱血漢を装う打算的な身の保身第一男。格好良い年上お姉さんに弱かったりもする。女生徒に良い所を見せるために張り切る蟹座のB型17歳美形。

一刀両断（いとり たち）

性別：女

所持武器：転校生スレイヤー

攻撃力：20 防御力：5 体力：3 精神力：2 対転校生抜刀術：0

特殊能力：『先手必勝一撃必殺』

防御を捨て一撃に賭ける門外不出一子相伝の絶技。

3ターンの間有効。自分にしか使えない。攻撃力をプラス5ポイント。防御力をマイナス5ポイント。通常攻撃をされたときにカウンターとして発動。攻撃を喰らう前に攻撃する。相手が死んだ場合ダメージを受けない。一人に対しては一回しか発動しない。この攻撃で相手を倒せなかった場合相手の体力を5ポイント治療し、自害する。

キャラクターの説明

『転校生』を倒すために生み出された魔人。その剣は転校生を倒すために鍛えられ、その技は転校生を倒すために練られてきた。だがしかし転校生を相手取ることに特化したため普通の魔人の相手は苦手。

キャラ製作者：白金、凧乃司

イラスト：稲枝ケイジ

月刊ダンゲロス #06 (2011年10月号)

<http://p.booklog.jp/book/36412>

「月刊ダンゲロス」は、主にpixivにてアップロードされた
二次創作小説、イラストを元に編集、創作されます。

今後、pixivにアップロードされた著作者様に
ご連絡させて頂くことがあるかもしれません。

よろしければご協力お願いいたします。

本文：架神恭介、「俺の嫁」参加者、珪素、バロネス夜渡の中の人
イラスト：稲枝ケイジ

編集：架神恭介

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36412>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36412>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.